令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」
［専門職業人材の最新技能アップデートプログラムの開発］
事業全体成果報告書

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、【イデア熊本アジア学園】が実施した令和７年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」の成果をとりまとめたものです。

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇

＜ 目 次 ＞

（１）事業の趣旨・目的等について …… 2

（２）開発する講座の概要 …… 2

（３）具体的な取組 …… 4
ⅰ）計画の全体像 …… 4

ⅱ）今年度の具体的活動 …… 8
① リカレント教育・講座の実施 …… 7
② リカレント教育・シラバス …… 14
③ リカレント教育・教材・実証結果 …… 32
④ リカレント教育・受講生アンケートと分析 …… 44
⑤ リカレント教育・広報と受講生募 …… 51
⑥ リカレント教育・セミナーの実施 …… 55
⑦ リカレント教育部会の開催 …… 59

ⅲ）取組を効果的・効率的に実施するための工夫 …… 69

（４）事業実施に伴う成果物 ……72

（５）事業実施によって達成する成果及び測定指標 ……73

（1）事業の趣旨・目的等について

・地方においては、人口減少・アフターコロナの日本再生・地域再生の中核を担うのが観光産業である。一方、観光産業は慢性的な人材不足に陥っており、その課題は低い労働生産性と現場の IT スキル人材不足に挙げられる。既に労働力の供給では限界があり、IT スキルのアップデートされた実務人材育成がその課題解決となりえる。
・専門学校イデア IT カレッジ阿蘇(IICA)は、R4年 4 月に熊本県南阿蘇村に、IT と観光サービスの人材を育成するために開校した。IICA では、企業と連携する「注文式教育」を導入して、「IT ソリューション学科」「グローバル IT ビジネス学科」を設置し、観光業界への IT 利活用人材を輩出していくことに取り組んでいる。
・本事業では、①IT 利活用コース、②IT エンジニアコースの IT 活用リカレント教育プログラムによって、既存従業員の知識・技能のアップデートを行い、観光業界で活躍する人材を輩出していくと共に、企業・団体と密に連携した、専門学校の安定的・持続的なリカレント教育のモデル・仕組みを構築する。

（2）開発する講座の概要

ⅰ）名称

観光業界の IT 活用リカレント教育モデル構築事業

ⅱ）講座に関する基本情報

基本情報	内容・目標等
対象とする職業・分野学習ターゲット、目指すべき人材像	①地域観光×IT 活用コース 地域活性化や観光における IT 活用に関心があり、地域づくりや他者との交流を通じて、新たな挑戦をしたいと考えている方。 ②AI キャリアアップコース 個人事業主、フリーランス、一般企業勤務（業務効率化担当、副業もしくは独立したいと考えている人）
対象者のレベル（当該プログラムの内容に関する基礎知識の有無）	①地域観光×IT 活用コース IT のスキルは問わない。パソコンやスマートフォンを日常的に使える。新しい技術やツールを学ぶことに抵抗がなく、柔軟な姿勢を持っている方。 ②AI キャリアアップコース 同上
プログラム受講後に想定される受講者のキャリア・受講者が目指す姿	①IT 利活用コース：阿蘇での学びを活かして、自身の地域や仕事で応用するスキルを身につけアウトプットができる。IT を活用した地域の課題解決や、地域リーダーとしての活躍。 ②AI キャリアアップコース～個人事業主、フリーランス、一般企業勤務（業務効率化担当、副業もしくは独立したいと考えている人）で AI を活用して活躍する人材

開発するプログラムの目標受講者数（1期間あたり）	①地域観光×IT 活用コース　:12 人　　参加費:25,000 円 ②AI キャリアアップコース:40 人（一般参加費:49,800 円）
開発するプログラムの想定総授業時数	①地域観光×IT 活用コース　:19.5 時間（FW9h＋講座・ゼミ 1.5h×5 コマ＋課題発表 3h=19.5h） ②AI キャリアアップコース:19.5 時間（1.5h/コマ×13 コマ=19.5h）
開発するプログラムの想定受講期間	①地域観光×IT 活用コース　:2 ヶ月間（7 月～8 月） ②AI キャリアアップコース:3 か月間（10～12 月）
e-ラーニングの実施の有無	①地域観光×IT 活用コース　:あり（オンライン講座、アーカイブ配信あり） ②AI キャリアアップコース:あり（オンライン講座、アーカイブ配信あり）

（3）具体的な取組

ｉ）計画の全体像

【全体テーマ】

「課題解決力×IT スキルで観光地域づくりを加速させる～地域観光リーダー育成塾」

【企画概要】:九州・熊本の実例や、観光の現場に特化した AI・IT 活用スキルを学ぶことで、現場で役立つ人材になれる。九州や熊本のリアルな事例を学べる、アクティブ・ラーニングで確かな実務力が習得できる。また多様な同志・仲間と出会えるコミュニティ支援の仕組みがある。

【令和 5 年度】

① 観光 IT リカレント教育部会の開催

本事業の進捗及び調査内容やリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発に関する助言の会議を開催した。 3 回

② リカレント教育・企業ニーズ調査

IT 利活用コース、IT エンジニアコースの事業者側のリカレント教育に関するニーズの実態を把握した。 98 件

③ リカレント教育・先行事例調査

既にリカレント教育を実施している教育機関、行政機関、企業等について先行事例研究を行い、その実態を把握した。 6 件

④ リカレント教育・社会人の学び直し調査

観光業界に関心が高い、転職・就職希望者にリカレント教育調査を行い、その実態を把握した。 261 件

⑤ IT 利活用コース、IT エンジニアコースのシラバスの開発、教材案の作成

IT 利活用コース、IT エンジニアコースのリカレント教育の具体的なシラバスを開発した。

シラバス 16 本 また、教材の案を一部作成した。

⑥実施モデル検討項目の整理

リカレント教育用の講座実施モデルのプロトタイプ構築及び次年度以降の実証授業の実施に必要となる日程、時期、期間、実施形態を整理した。

【令和 6 年度】

【1】講座のプログラム開発

◎IT 利活用コース、IT エンジニアコースのシラバス・教材開発

前年度開発した両コースのシラバスの修正と両コースの教材を開発する。

・IT 利活用コース　　3 科目群、8 科目

・IT エンジニアコース　　4 科目群、 8 科目　　合計 16 科目

※R6 年年 8 月 29 日～11 月 14 日　実施済

【2】リカレント教育の広報と受講者募集

R6 年度に開催する IT 利活用コースの団体・企業向けに HP やパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。

◎リカレント教育の情報発信（6 科目分のダイジェスト動画）

◎リカレント教育受講生募集の情報発信（HP 制作）

◎募集告知 WEB 情報発信（SNS・リスティング広告等のメディアミックス 15 本）

◎募集告知用 広報物（リーフレット A4 サイズ 1000 部）

◎リカレント教育の情報発信（リカレント事業全体紹介用動画）※5 分間程度、1本

【3】リカレント教育 実証講座の実施

◎社会人向けリカレント教育講座の実施

IT 利活用コースについて、業界・事業者と連携してリカレント講座を開催する。

全てを受講する本科生と部分を受講する聴講生枠をつくる。

・IT 利活用コース 8 科目

・本科生 12 人 ・聴講生（部分の受講者） 28 人 合計 40 人

・IT エンジニアコースは、教材を開発し、次年度への周知につなげる。

【4】リカレント教育 アンケート調査

◎講座受講生アンケート調査

本事業の IT 利活用コースを受講した本科生、聴講生について、受講した後のカリキュラムの評価、授業の満足度、理解度をアンケート調査し、その分析を行い、次年度のシラバス、教材、授業の実施構成についての検証を行う。

・受講生の参加アンケート 40 件

◎企業・団体向けリカレント教育カリキュラム導入調査

本事業の成果物が企業や団体の求める人材像とリカレント教育カリキュラム内容になっているかを、企業・団体に対してヒアリング調査を行いながら本事業の広報活動を行う。

※企業・団体ヒアリング調査・広報活動 15 件 実施済み

【5】リカレント教育部会の開催

本事業の進捗及びリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、及び講座実施に関する助言の会議を開催する。 3 回

※第 1 回：R6 年 7 月 4 日/第 2 回目:R6 年 12 月 25 日/第 3 回：R7 年 2 月 19 日実施済

【6】「注文式教育的な企業提携の仕組み」と継続的連携組織

専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的に利活用されるために、「注文式教育的な企業提携の仕組み」を導入する。

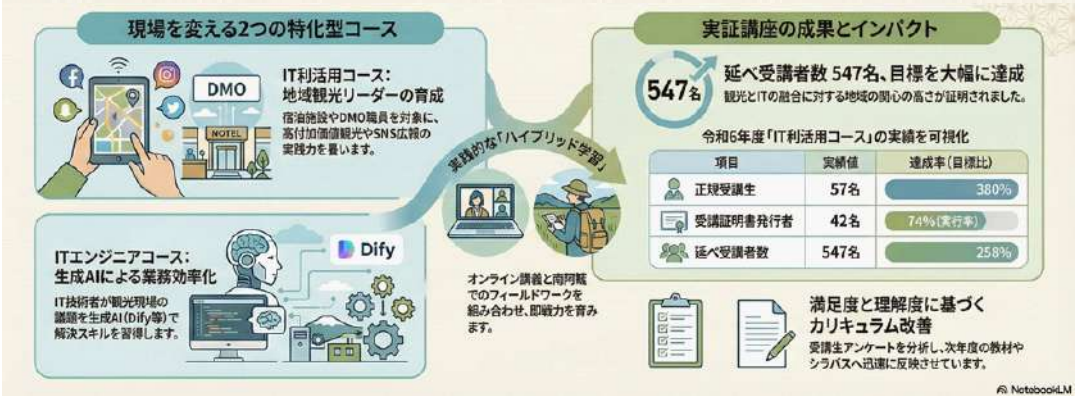
【R5 年度のまとめ】



【R6年度のまとめ】

R６年度
２．カリキュラム開発
３．実証講座（無料開催）

地域観光×IT活用コースの無料開催
→コースのブラッシュアップ
ITエンジニアコースのカリキュラム開発
→AIの活用が急速にエンジニア以外にも広がっていく



【令和 7 年度】

【1】2つのコースのシラバス、教材の修正

受講生からのフィードバックを受けて、前年度開発した IT 利活用コースのシラバス及び教材を修正する。また、昨今の急激な AI 活用を踏まえて、エンジニア向けの「IT エンジニアコース」を大幅にリニュアルして、今年度新たに 「AI キャリアアップコース」としてシラバス・教材を開発する。

①地域観光 × IT 活用コース

：19.5 時間（FW9h＋講座・ゼミ 1.5h × 5 コマ＋課題発表 3h=19.5h）

②AI キャリアアップコース（新規にリニュアル）

：19.5 時間（1.5h/コマ × 13 コマ=19.5h）

【2】リカレント教育の広報と受講者募集

・IT 利活用コース、AI キャリアアップコースの団体企業向けに HP やパンフレット等のツールを活用し広報を行い、受講者を募集する。

【3】リカレント教育　講座の実施

IT 利活用コース、②AI キャリアアップコースについて、業界・事業者と連携してリカレント講座を開催する。

① 地域観光 × IT 活用コース　：2 ヶ月間（7 月～8 月） 12 人

② AI キャリアアップコース　　：3 か月間（10～12 月） 40 人

【4】観光 IT リカレント教育部会の開催

本事業の進捗及びリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、講座実施に関する助言の会議を開催する。 3 回

【5】リカレント教育モデルセミナー開催

本事業の成果物を全国的に情報発信していく手段として、「リカレント教育モデルセミナー」を開催する。また、広報活動として AI 超初心者向けセミナー実施を行う。

・公開セミナー開催：1 回、 AI 超初心者向けセミナー実施：1 回

【6】　リカレント教育・受講生アンケート調査

本事業の IT 利活用コースを受講した本科生、聴講生について、受講した後のカリキュラムの評価、授業の満足度、理解度をアンケート調査し、その分析を行い、次年度のシラバス、教材、授業の実施構成についての検証をおこなう。

・受講生の参加アンケート 24 件

【7】「注文式教育的な企業提携の仕組み」と継続的連携組織

専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的に利活用されるために、「注文式教育的な企業提携の仕組み」を導入する。

ⅱ）今年度の具体的活動

〇実施事項

【1】リカレント教育　講座の実施

【3】2 つのコースのシラバス、教材の確定

実証事業として実施した。以下は各コースの概要と成果と課題

（1）IT 利活用コース

【全体テーマ】:「社会人向けスキルアップ講座　地域観光×IT 活用　実践プログラム」

【企画概要】:地域の観光振興や課題解決に向けて「IT　の実践的活用」を学び、自ら動き、仲間とともに地域を変える人材を育てる実践型の教育プログラム。観光×IT をテーマに、現場の実務と地域の課題解決に直結するスキルを学ぶ全 8 日間構成。「オンライン講義 6 回＋1 泊 2 日　南阿蘇フィールドワーク」の実践型プログラムを柱とし、起業家・実践者による特別講義、少人数制の専門ゼミ（久保/鈴木/廣瀬ゼミ）、南阿蘇での現地研修を通して、現場性・即効性・継続性のあるアクション力を育成する。

【対象者】

〇正規受講生:定員 12 名

全日程参加（オンライン講義 6 回+1 泊 2 日現地研修+実践型ゼミ）し、自分の地域でのアクションを具体的にカタチにしたい方。地域観光に関わりたい方、IT・AI を活用して地域課題を解決したい方、人材・広報・マーケティングに課題を感じている方。

〇単発受講生:定員なし

ゲスト講師の講座（第 2 回、第 3 回、第 5 回）のみ参加可能。観光×IT 活用に関する最新の知見を広めたい方。

【料金】

正規受講生:25.000 円（※現地研修の交通費、宿泊費、食費は実費）

単発受講:ゲスト講師の講義（第 2 回、3 回、5 回)は各回 3,000 円

【構成】:① ゲスト講師による講義（3 回） ② 少人数制の実践型ゼミ（3 ゼミ:地域観光マーケティング、インバウンド・人材、PR・SNS・メディア） ③ 南阿蘇での 1 泊 2 日現地研修（フィールドワーク） ④ オリエンテーション・課題深掘り・最終レビューセッションを含めた全 6 回のオンライン講座と 1 泊 2 日の現地研修による全 8 日間構成。

【科目数】:全 7 科目（オンライン講義 6 回＋現地研修 1 回）

【授業形式と時間】:計 19.5 時間

オンライン講義:計 10.5 時間（第 1 回～第 5 回:1.5 時間×5 回（7.5 時間)、第 6 回:3 時間×1 回（3 時間））・南阿蘇フィールドワーク:計 9 時間

【開催時期】:令和 7 年 7 月 17 日～8 月 31 日（全 8 日間）

【実施結果】:地域活性化を担う人材育成を目的とした本講座は、オンライン講義と 1 泊 2 日の現地研修を組み合わせた実践的なカリキュラム構成で実施された。定員 12 名の参加申込みがあり、実践型の少人数ゼミ形式を採用したことで、参加者からは「主体的に取り組むきっかけとなった」「意見のやり取りができ、参画意欲が高まった」など、高い評価を得た。
また、ゲスト講師による最新トレンド講義の満足度も高く、「講師のお話が毎度、非常に勉強になった」、「アーカイブ共有があり見返せて良かった」との声が寄せられた。ゼミでは「講師の手厚いサポートが印象的」「それぞれの悩みに対し細かいアドバイスをいただけた」と、地域アクションの具体化に対する伴走支援が効果的だった。
参加者のアンケートでは「来年もぜひ参加したい/参加したい」が 100%となり、プログラムの質の高さを裏付けている。一方で、開催時期が 7 月・8 月だったため、宿泊事業者など一部の受講生は 8 月の欠席が増加した。修了証書発行条件(FW 除く 2 回欠席まで)に達したのは 9 名で、次年度以降の開催時期については再検討が必要である。

【受講者数】: 正規受講生 12 名
※内、有料参加 9 名、その他招待枠での受講。

【受講証明書発行者数】:9 名

【講座一覧】」

No	日程	概要	内容	講師
第1回	7月17日(木) 19:00~20:30	オリエンテーション+ ゼミ始動キックオフ	本事業の趣旨とプログラムの説明。 ゼミ講師との顔合わせと課題意識を共有する全プログラムをさらに有意義にする始動回。	井手 修身 (イデアITカレッジ阿蘇/学長)
第2回	7月24日(木) 19:00~20:30	ゲスト講師講座① (講義&質疑70分+ゼミ20分)	地域の移動を変える起業ストーリーから、事業創造と実装を学ぶ。	家本 賢太郎 (チャリチャリ(株)/代表取締役)
第3回	8月1日(金) 19:00~20:30	ゲスト講師講座② (講義&質疑70分+ゼミ20分)	滞在型観光と高付加価値化の仕組みを知り、観光戦略を構想する。	嶋田 俊平 ((株)さとゆめ/代表取締役CEO)
現地研修 (1泊2日)	8月2日(土) (13:00-17:00) 8月3日(日) (9:00-14:00)	南阿蘇 フィールドワーク+ 対面ゼミ探究	南阿蘇をひとつの地域事例としてみる2日間。現場を見て、考え、地域課題との向き合い方や、自分のテーマについて探求するフィールド演習。また対面でのゼミを通して、より深度のある検討・計画へ。	久保 尭之 (みなみあそ観光局 戦略統括マネジャー)
第4回	8月7日(木) 19:00~20:30	課題深掘り& 実装検討セッション (ゼミ90分)	ゼミごとに個々の企画を深掘り。講師の伴走を受けながら、地域に刺さる提案や各自のアクションプランを磨く。	久保 尭之 鈴木 俊良 廣瀬 実華
第5回	8月21日(木) 19:00~20:30	ゲスト講師講座③ (講義&質疑70分+ゼミ20分)	インバウンド×ITの最新潮流を学び、今後の展望と自地域での応用を検討。	村山 慶輔 ((株)やまとごころ/代表取締役)
第6回	8月31日(日) 13:30~16:30	最終レビュー& セッション 成果発表フィードバック	講義やゼミ探求をもとに成果を発表。全体で振り返りとフィードバックを行い、明日からできるアクションへつなげる。	井手 修身 ゼミ 講師

【講師一覧】

ゲスト講師

まちの移動の、つぎの習慣をつくる ～シェアサイクルを通じたまちづくりへの貢献～

シェアサイクル『チャリチャリ』で北部九州のインフラを変える挑戦を続ける現役経営者が語る、地域密着型ビジネスの実践論。
15歳起業から培った事業創造の視点で、地域課題をビジネスで解決する手法と挑戦に必要な熱量の源泉を伝える。

地域インフラ革新　地域密着ビジネス　挑戦マインド



家本 賢太郎
（チャリチャリ株式会社/代表取締役）

滞在型・高付加価値型観光事業のつくり方 ～株式会社さとゆめの挑戦～

分散型ホテル事業で国土交通大臣賞を受賞した実践者が、『滞在型×高付加価値観光』の事業化ノウハウを公開。
量から質へ、通過から滞在へ。時代変化を味方につける地域観光事業の新常識を体系的に解説。

滞在型観光戦略　高付加価値観光　地域資源活用



嶋田 俊平
（株式会社さとゆめ/代表取締役CEO）

地域の魅力を“世界に届ける”方法 ～インバウンド時代の観光マーケティングとIT活用術～

国内最大級のインバウンド情報サイト『やまとごころ』の運営者が、地域事業者の視点を根本から変えていく。あなたの地域の「当たり前」を世界の「特別」に変える発想法と、小さな地域でも通用する観光マーケティング実践術を学ぶ。

インバウンド戦略　地域価値発見　グローバル視点



村山 慶輔
（株式会社やまとごころ/代表取締役
兼 インバウンド戦略アドバイザー）

3つの実践ゼミ

久保ゼミ：地域の未来をつくる“現場視点”の事業戦略を学ぶ

南阿蘇で地域DMOの運営や新規事業開発・事業承継によるローカルビジネスに取り組む講師と共に、現場での実践から学ぶゼミ。
地域資源を活かした商品開発、官民連携、ITやデータ活用など、多様なテーマに触れ、自分の地域で動くための視点と力を磨く。

地域観光マーケティング　官民連携　新規事業開発



みなみあそ観光局（地域DMO）
戦略統括マネジャー
株式会社アクウィー/代表取締役

鈴木ゼミ：“ローカル×グローバル”の視点で観光と新時代を拓く

JTBやミャンマーでの起業経験を持つ講師と、今後ますます加速する訪日外国人市場と人材確保のリアルに挑むゼミ。
観光業に必要な外国人対応、採用、定着、ITによる業務の省力化など“人”を軸としたローカル戦略を構築。

インバウンド対応　人材育成　コンテンツ開発・企画



イデアITカレッジ阿蘇
（副校長）

廣瀬ゼミ：“伝える”から“動かす”広報へ IT×PRで突破する次の一手

LINEやリクルートでのメディア知識と広報経験、地域創生の現場を知る講師が導く、超実践型広報ゼミ。
AIやデザインツールを活用したSNS運用、メッセージ設計、戦略PRを徹底して鍛える。

SNS&PR実践　AIツール活用　広報戦略



イデアITカレッジ阿蘇
（コーポレートコミュニケーション室 室長）

（2） AI キャリアアップコース

【全体テーマ】:初心者歓迎！AI キャリアアップコース
【企画概要】:生成 AI（ChatGPT, Claude, Gemini 等）の基礎知識から、業務効率化を目的とした活用プロセス、および実務に必要なスキルを体系的に学ぶ教育プログラム。文部科学省委託事業として、最新技能のアップデートを通じた生産性向上と DX 推進人材の育成を目的とする。急速な AI 技術の広がりを受け、期中にターゲットの再設定やカリキュラム調整を柔軟に実施し、実務家講師が現場の生産性向上に直結する技を伝える。

【対象者】
AI 初心者。個人事業主、フリーランス、一般企業勤務（業務効率化担当、副業・独立検討者）など。

【料金】: 49,800 円（税込）

【構成】:①生成 AI の基礎:活用の目的、主要ツールの仕組みとプロンプト技術 ②生成 AI の活用:議事録効率化、社内マニュアル作成、NotebookLM による教育資料作成 ③事業企画とプレゼン:市場調査や分析・スライド生成等。 ④生成 AI×AI ライティング技術:SEO 分析、キーワードリサーチ、AI 生成記事の編集技術 ⑤生成 AI×マーケティング:事業企画案、競合調査、SNS 投稿・画像生成の実践 ⑥生成 AI×事務処理の自動化:スプレッドシート連携、自動化ツールによる業務システム構築

【科目数】:全 9 科目（6 つの科目群、全 13 回の講義で構成）

【授業形式と時間】:計 19.5 時間
全てオンライン（Zoom によるリアルタイム形式）で実施。1.5 時間（90 分）×13 回。

【開催時期】:令和 7 年 10 月 1 日～12 月 24 日（募集期間:8 月～9 月）

【実施結果】:実務への即効性を重視したアウトプット型カリキュラムとして遂行され、総合満足度は約 87%に達した。受講前は「少し触った程度」が約 7 割であったが、受講後は 95.7%が「AI を活用するスキル・自信が向上した」と回答した。 生産性向上の面では、受講生の約 25.5%が月間 10 時間以上の業務削減を見込んでおり、年間 120 時間の工数削減（約 15 営業日分）に相当する高い投資対効果（ROI）を創出した。また、受講を機に社内で AI プロジェクトが立ち上がり、担当者に抜擢されるなどの具体的なキャリアアップ事例も報告されている。 一方で、受講生間のリテラシー差により「進行が早い」との指摘があった。今後は、難易度別のクラス分離、職種別のユースケース提示の強化など、よりパーソナライズされた指導の充実が課題として挙げられた。

【受講者数】:計 85 名 （有料参加 29 名/その他招待）

【受講証明書発行者数】:43 名

【講座一覧】

■AIキャリアアップコース　カリキュラム

科目群	科目名	講座内容	時間
1) 生成AIの基礎	生成AI活用の目的と基礎	・主要3大AI（ChatGPT, Gemini, Claude）の比較と使い分け ・プロンプト作成テクニック（役割・背景・制約条件の明示） ・ChatGPTキャンバスモード、GeminiのGoogle連携実演 ・Perplexityと連携させた事業企画作成の実践例	1.5
2) 生成AIの活用	社内マニュアルの作成	・既存の社内ルール・規約のAIマニュアル化手法 ・Feloによるテキスト情報からのスライド形式マニュアル作成 ・NotebookLMを活用した複数資料の一元管理と情報統合	1.5
	議事録作成の効率化	・AI文字起こしツール（Notta, TLDV, Zoom AI等）の比較 ・合意事項、ネクストアクションを抽出するプロンプト設計 ・文字起こしデータの営業教育、新人教育への転用手法	1.5
	社内ノウハウの集約	・GPTsの基本構造（役割、ルール、知識、指示）の習得 ・社内質問対応・文章作成・業務特化型ボットの構築 ・実例：パワハラ防止言い換えボット等の実用的GPTs作成	1.5
3) 事業企画と プレゼン	事業企画の作り方	・Perplexityによる出典付き市場調査・競合調査手法 ・ChatGPTでの整理・分析と事業企画案の立案 ・Gammaを活用したテキストからのスライド自動生成	1.5
4) 生成AI × ライティング	AIライティング技術	**【前半：基礎・構成】** ・SEO記事作成のフロー（リサーチ、構成案、執筆） ・PerplexityによるキーワードAnalysisとキャンバスモード活用 **【後半：自動化・推敲】** ・記事作成専用GPTsの構築によるワークフロー自動化 ・Claudeを活用した人間らしい文章へのブラッシュアップ ・SEO強化のための見出し最適化と検索意図の反映	3
5) 生成AI × マーケティング	AI活用マーケティングとクライアント獲得戦略	**【前半：戦略・投稿文】** ・Instagramアルゴリズム理解と3C分析の応用 ・DeepResearchを使った市場トレンド・ターゲット分析 ・ChatGPT/Claudeによるターゲットに響く投稿文作成 **【後半：ビジュアル・分析】** ・専用GPTsによるキャッチコピーの自動生成 ・Imagen 3（思考モード）とCanvaを組み合わせた画像生成 ・AIによるインサイトデータの自動分析と改善案抽出	3
6) 生成AI × 事務自動化	自動化システムの作り方	**【前半：一方向連携】** ・GPTsとスプレッドシートのAPI連携（GAS/スキーマ設定） ・レシート画像の自動読み取りと経費データ入力システム構築 **【後半：双方向連携】** ・在庫管理ボット等の双方向データ参照・更新システム実装 ・AIによるシステム開発のための「要件定義」自動生成	3
	Gmail自動返信システムの作成	**【前半：ワークフロー構築】** ・自動化プラットフォーム「n8n」の基本操作と連携設定 ・受信をトリガーとした返信文の自動下書き作成保存 **【後半：高度な応用】** ・条件分岐によるメール内容ごとの自動振り分け処理 ・添付ファイルの自動保存と社内マニュアル参照返信の自動化	3
合計			19.5

【講師一覧】

メイン講師：村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。



講師：河原田 茉莉（UNFRAME）

大手化粧品メーカーで約10年、商品企画・ブランド開発に従事。独立後は化粧品・美容領域に特化し、新規ブランドや新商品の支援を行う。AIを活用した「コンセプト設計～世界観構築」を強みに、AI×ブランディング講座を主宰。セミナー累計参加者300名超の実績を持つ。



講師：大内 結貴（株式会社ミライブースト）

京都大学大学院修了。診断薬開発から教材制作、マーケティングまで多様な業界を経験し、論文執筆実績も持つ。豊富な企業研修実績を持つAI活用講師として、様々な業界・職種に対するカスタマイズ研修を提供する。Webライターとして実務経験を積み、AIを活用した効率的なライティング手法を確立している。



◎シラバス（IT 利活用コース）

6 種：全体シラバス・久保ゼミ・鈴木ゼミ・廣瀬ゼミ・フィールドワーク 1 日目・2 日目

【全体シラバス】IT利活用コース

コース名	形式	科目名
IT利活用	オンライン・対面	地域観光×IT活用実践プログラム 2025
時間	受講対象者	講師
19.5	正規受講生 単発受講可能	家本賢太郎・嶋田俊平・村山慶輔 久保尭之・鈴木俊良・廣瀬実華

●コース概要

本コースは、地域資源を活かした観光まちづくりや事業開発の現場を体感し、IT・AIを武器として地域課題を解決する実践型プログラムです。単なる座学にとどまらず、南阿蘇でのフィールドワークを通じて「現場の裏側」を学び、各自のテーマに沿ったアクションプランを策定・実装することを目指す。

●ゼミ概要（選択制）

久保ゼミ： 地域観光マーケティング・官民連携・事業開発
鈴木ゼミ： 訪日インバウンドマーケティング・国内/外国人材の確保・活用
廣瀬ゼミ： PR・SNS・メディア活用

●到達目標

【ねらい】 講師の伴走を受けながら、自地域や事業の課題に対する質の高いアウトプットを導き出し、「明日からアクションできる」状態になること。
【目標】 地域資源を活用したビジネスモデルや集客戦略を理解し、実務の中でIT・AIを使いこなして業務改善や課題解決ができるようになること。

●スケジュール・内容

第1回：オリエンテーション
プログラム趣旨説明、ゼミ講師との顔合わせ、各自の課題意識の共有。
第2回：ゲスト講義①
家本賢太郎氏による「地域の移動を変える事業創造と実装」の講義とゼミ検討。
第3回：ゲスト講義②
嶋田俊平氏による「滞在型観光と高付加価値化の仕組み」の講義と戦略構想。
現地FW：南阿蘇フィールドワーク
【Day1】 道の駅あそ望の郷や長陽駅の視察を通じた地域資源の活かし方の学習。
【Day2】 戦略・アクションプランの企画資料作成と講師フィードバック。
第4回：実装検討セッション
各ゼミ（久保・鈴木・廣瀬ゼミ）に分かれ、各自の企画を深掘り・ブラッシュアップ。
第5回：ゲスト講義③
村山慶輔氏による「インバウンド×ITの最新潮流」の講義と自地域への応用検討。
第6回：最終成果発表会
ゼミ探究をもとに成果を発表。講師陣からの最終講評とネクストアクションの確認。

【久保ゼミ】IT利活用コース

コース名	形式	科目名
IT利活用	オンライン	ローカルアクション・ラボ 【地域観光マーケティング・官民連携・事業開発】
	受講対象者	講師
	正規受講生	久保尭之 （地域DMO：みなみあそ観光局 戦略統括マネジャー）

●講師情報

鹿児島県出身、熊本県南阿蘇村在住。みなみあそ観光局（地域DMO）戦略統括マネジャー、専門学校イデアITカレッジ阿蘇 地域観光デザイン学科ディレクター、株式会社アクウィー代表取締役、他。東京大学工学部卒業後、重工メーカーで設計開発に従事。東北の産業復興支援を経て熊本地震後に南阿蘇へ移住し、地域DMOの立ち上げ、観光振興、地域資源を生かしたコンテンツ開発、宿泊施設や飲食事業の運営、空き家活用や事業承継といった地域課題解決型の事業を幅広く手がける。観光行政・マーケティング・IT活用・事業開発を専門とし、現場起点の実践と政策を結ぶ架け橋として活動中。

●科目概要

本科目は、ゼミ形式で実施し、テーマに沿った課題設定・探求、解決策を検討・研究していく。
久保ゼミのテーマ【地域観光マーケティング・官民連携・事業開発】
地方創生・観光地域づくりの核として、地域資源を活かした観光コンテンツの開発、地域マーケティングの手法、行政・民間・住民の連携による地域課題の解決が求められている。そこで本ゼミでは、地域の実情を踏まえた持続可能なマーケティング・事業プランの立案を行う。また、IT・AIを活用した課題分析や企画立案の手法を習得する。

●到達目標

【ねらい】各ゼミに置いて、参加者の自地域や事業、もしくは阿蘇をフィールドとした課題探求・解決策の検討・研究を通して、「明日からアクション出来る」をゴールに、一人ではなく担当講師と一緒に質の高いアウトプットを導いていく。また、そのプロセスを体感し、自身のノウハウへ昇華していく。
【目標】参加者が自地域や関心分野における「地域資源の活用」や「課題解決の実践例」を理解し、地域の動かし方を見極める力を養う。また、それを持続可能なプランとして落とし込み、明日からの各自のアクションに繋げる。さらに、実務の中でIT・AIを使いこなし、業務を改善していけるようになる。

●授業内容

0.各ゼミ配属に伴う事前レポートの提出。※事前課題
1.各ゼミ配属とイントロダクション。
2.各ゼミごとに課題探求・解決策検討。
3.南阿蘇でのリアルゼミ開催。
4.成果発表会・最終好評
その他、持ち帰りで研究を進め、担当講師とコミュニケーションも必要に応じて実施。

【鈴木ゼミ】IT利活用コース

コース名	形式	科目名
IT利活用	オンライン	ローカルアクション・ラボ 【インバウンド・国内,外国人材】
	受講対象者	講師
	正規受講生	鈴木俊良 （専門学校イデアITカレッジ阿蘇 副校長）

●講師情報

神奈川県出身、熊本県南阿蘇村在住。専門学校イデアITカレッジ阿蘇 副校長、株式会社アクウィー取締役。中国やカナダへの留学経験を経て、JTB Asia Pacific入社。ミャンマー支店にてインハウス事業の立ち上げなどを経験し、ミャンマー地方で起業。地域資源を活かした持続可能な観光事業と飲食事業を運営。コロナ禍で帰国し、イデアITカレッジ阿蘇の立ち上げに参画。国内外の学生募集や広報マーケティングを中心に学校運営を担い、株式会社アクウィーでは旅行事業を担当。

●科目概要

本科目は、ゼミ形式で実施し、テーマに沿った課題設定・探求、解決策を検討・研究していく。
鈴木ゼミのテーマ【訪日インバウンドマーケティング・国内／外国人材】
訪日外国人旅行者数が増加する中、地方における大きな課題として挙げられる『外国人観光客の取り込み』と『人材確保』。本ゼミでは、外国人観光客獲得に向けた課題の整理と戦略立て、またインバウンド対応に限らず国内／外国人材の確保、活用について検討、研究をおこなう。また、IT・AIを活用したインバウンド集客や対応、省人化の可能性についても検討する。

●到達目標

【ねらい】参加者の自地域や事業、もしくは阿蘇をフィールドとした課題探求・解決策の検討・研究を通して、「明日からアクション出来る」をゴールに、一人ではなく担当講師と一緒に質の高いアウトプットを導いていく。また、そのプロセスを体感し、自身のノウハウへ昇華していく。
【目標】外国人観光客獲得に向けた現状の課題を整理・理解し、適切な対応策を検討できるようになる
地域や組織の実情に合わせた人材確保、活用の可能性を考え、新たな取り組みを検討できるようになること。また、実務の中で、IT・AIを使いこなし、業務を改善していけるようになること。

●授業内容

0.各ゼミ配属に伴う事前レポートの提出。※事前課題
1.各ゼミ配属とイントロダクション。
2.各ゼミごとに課題探求・解決策検討。
3.南阿蘇でのリアルゼミ開催。
4.成果発表会・最終好評
その他、持ち帰りで研究を進め、担当講師とコミュニケーションも必要に応じて実施。

【1泊2日フィールドワーク：1日目】IT利活用コース

コース名	形式	科目名
IT利活用	オンライン	フィールドワーク in 南阿蘇
時間	受講対象者	講師
4.0	正規受講生	久保尭之 （地域DMO：みなみあそ観光局 戦略統括マネジャー）

●講師情報

鹿児島県出身、熊本県南阿蘇村在住。みなみあそ観光局（地域DMO）戦略統括マネジャー、専門学校イデアITカレッジ阿蘇 地域観光デザイン学科ディレクター、株式会社アクウィー代表取締役、他。東京大学工学部卒業後、重工メーカーで設計開発に従事。東北の産業復興支援を経て熊本地震後に南阿蘇へ移住し、地域DMOの立ち上げ、観光振興、地域資源を生かしたコンテンツ開発、宿泊施設や飲食事業の運営、空き家活用や事業承継といった地域課題解決型の事業を幅広く手がける。観光行政・マーケティング・IT活用・事業開発を専門とし、現場起点の実践と政策を結ぶ架け橋として活動中。

●科目概要

熊本県南阿蘇地域を舞台に、地域資源を活用した観光まちづくりの現場を体感しながら、地域資源の活かし方やIT利活用の課題と可能性を実践的に学ぶ。現地視察で現場の裏側まで含めて知ることで観光・地域振興における実践的なスキルとマインドを養い、実践型ゼミでのワークに繋げていく。

●到達目標

【ねらい】南阿蘇を1つのモデルケースとして、地域観光の現状と可能性を理解し、ITも活用しながら持続可能な観光地域づくりを進めるための方法論を学ぶ。
【目標】地域資源を活用したビジネスモデルや集客戦略、地域住民との連携の重要性などを理解し、自らの地域への応用を考える。

●授業内容

【Day 1】
①全体講義（13:00-14:00：1h）
・FW全体のオリエンテーション＆アイスブレイク
・講義：地域経済の理解と、AIを活用した観光地域づくりの現場運営
②南阿蘇視察（14:00-16:00：2h）
・現場の表側＆裏側の両方を知りながら、地域資源の活かし方を学ぶ視察見学
・スポット①：道の駅あそ望の郷くぎの：熊本県内人気No.1の道の駅と地域DMOの役割を学ぶ
・スポット②：長陽駅 久永屋（予定）：南阿蘇鉄道の復興と地域との共生について学ぶ
③ゼミ別ワーク（16:00-17:00：1h）
・視察の振り返り（全体）
・ゼミ別のイントロダクション＆各参加者の課題意識の共有

【1泊2日フィールドワーク：2日目】IT利活用コース

コース名	形式	科目名
IT利活用	オンライン	フィールドワーク in 南阿蘇
時間	受講対象者	講師
5.0	正規受講生	久保尭之 （地域DMO：みなみあそ観光局 戦略統括マネジャー）

●講師情報

鹿児島県出身、熊本県南阿蘇村在住。みなみあそ観光局（地域DMO）戦略統括マネジャー、専門学校イデアITカレッジ阿蘇 地域観光デザイン学科ディレクター、株式会社アクウィー代表取締役、他。東京大学工学部卒業後、重工メーカーで設計開発に従事。東北の産業復興支援を経て熊本地震後に南阿蘇へ移住し、地域DMOの立ち上げ、観光振興、地域資源を生かしたコンテンツ開発、宿泊施設や飲食事業の運営、空き家活用や事業承継といった地域課題解決型の事業を幅広く手がける。観光行政・マーケティング・IT活用・事業開発を専門とし、現場起点の実践と政策を結ぶ架け橋として活動中。

●科目概要

熊本県南阿蘇地域を舞台に、地域資源を活用した観光まちづくりの現場を体感しながら、地域資源の活かし方やIT利活用の課題と可能性を実践的に学ぶ。現地視察で現場の裏側まで含めて知ることで観光・地域振興における実践的なスキルとマインドを養い、実践型ゼミでのワークに繋げていく。

●到達目標

【ねらい】南阿蘇を1つのモデルケースとして、地域観光の現状と可能性を理解し、ITも活用しながら持続可能な観光地域づくりを進めるための方法論を学ぶ。
【目標】地域資源を活用したビジネスモデルや集客戦略、地域住民との連携の重要性などを理解し、自らの地域への応用を考える。

●授業内容

【Day 2】
①全体ワーク（09:00-09:40：40min）
・地域活性化に向けたナレッジシェアリング
②ゼミ別ワーク（09:40-11:30：1h50min）
・現状分析→戦略→アクションプランの企画資料の作成を
・大枠を各自で作りつつ、ゼミ担当講師からのフィードバック
③リフレッシュタイム（11:30-12:00：30min）
・現場視察：復興の象徴「新阿蘇大橋展望所ヨ・ミュール」見学
④昼食交流会（12:00-13:00：1h）
・参加者同士で懇親を図る
⑤全体ワーク（13:00-14:00：1h）
・各個人&ゼミの進捗共有・チェックアウト&事務連絡

◎シラバス（AI キャリアアップコース）

13 種：各回

【第1回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	生成AI活用の目的と基礎
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

AI活用状況が初級から中級程度の参加者を対象に、AI活用の基礎中の基礎から実践的なテクニックまでを学ぶ。特に、ChatGPT、Gemini、Claudeといった主要なAIツールの特徴と違いを理解し、実際に操作することでアウトプットの違いを体感する。また、業務で品質の高いアウトプットを得るためのプロンプト作成テクニックの基本を習得する。さらには、競合調査に特化したAIツールや、AIツール同士を組み合わせた効率的な事業企画作成方法についても学ぶ。

●到達目標

【ねらい】 AIの出力品質は人間からの指示（プロンプト）の質に左右されるという認識を持ち、AIが万能ではないことを理解する。AIに対する心理的ハードルを払拭し、業務でのAI活用への意識を高める。
【目標】 主要な3大AIツール（ChatGPT、Gemini、Claude）の基本的な使い方、それぞれの特徴や長所・短所を理解し、適切に使い分けられるようになる。役割指示、コンテキスト（背景や前提条件）、制約条件などを盛り込んだ、業務に役立つ質の高いプロンプトを作成できるようになる。ChatGPTのキャンバスモードや、GeminiとGoogleサービスを連携させた実践的な活用方法を習得する。

●授業内容

主要な3大AIツール、ChatGPT、Claude、Geminiの特徴を比較し、日本語対応やGoogle連携などを把握する。最適なツールを使い分けることで、高品質なアウトプットを生み出せるため、プロンプト作成では、AIに役割、コンテキスト、制約条件を明確に伝える方法を学ぶ。ChatGPTでは、カスタム指示、メモリ機能の活用法を解説し、出力文章の読解レベルや長さを調整するキャンバスモード、定期情報収集のスケジュール機能も実演。Geminiでは、インフォグラフィックでレポートを作成できる強みを活かし、生成コードをGoogleサイトに埋め込んで資料をウェブサイトとして公開・共有する効率的な方法を実演する。複数のAIツールを組み合わせた活用戦略を紹介し、市場調査用のPerplexityを活用し、ChatGPTに連携させて事業企画を作成する実践例を通して、ツール連携による業務効率向上を目指す。

【第2回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	社内マニュアルの作成
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

既存の社内ルールや規約をAIを活用してマニュアル化する手法を学ぶ。散在するテキスト情報を整理し、誰が見ても分かりやすい形式に変換する技術を習得する。Feloを使ったスライド作成や、NotebookLMを活用した情報整理など、複数のAIツールを組み合わせた効率的なマニュアル作成フローを体験する。テキストベースの情報を視覚的に分かりやすくまとめるスキルは、マニュアル作成に限らず様々な業務に応用可能である。

●到達目標

【ねらい】 テキストベースの情報をAIで効率よく整理・可視化する考え方を身につける。1つのスキルを習得するだけでなく、それを自分の業務に応用する発想力を養う。
【目標】 Feloを使って既存のテキスト情報からスライド形式のマニュアルを作成できるようになる。NotebookLMを活用して複数の情報源を統合・整理する方法を習得する。AIツールの特性を理解し、目的に応じて最適なツールを選択・組み合わせられるようになる。

●授業内容

既存ルールのマニュアル化と新規マニュアル作成の2種類のアプローチを解説する。Feloの検索機能とAIスライド作成機能を活用し、テキスト情報を視覚的に分かりやすいスライド形式に変換する方法を実践する。プロンプトの構成として、シンプルな指示でも効果的なアウトプットを得るコツを紹介する。NotebookLMを使った情報の統合・整理手法を学び、複数の資料を一元管理する方法を習得する。AIは知恵の勝負であり、1つのスキルを様々な業務に応用する視点が重要であることを強調し、自社のサービス説明や商品説明、社内規定など、様々な場面への応用方法を考える。

【第3回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	議事録作成の効率化
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	河原田 茉莉（UNFRAME）

●講師情報

大手化粧品メーカーで約10年、商品企画・ブランド開発に従事。独立後は化粧品・美容領域に特化し、新規ブランドや新商品の支援を行う。AIを活用した「コンセプト設計～世界観構築」を強みに、AI×ブランディング講座を主宰。セミナー累計参加者300名超の実績を持つ。

●科目概要

AI文字起こしツールを活用した効率的な議事録作成手法を学ぶ。Notta、TLDV、Zoom AIコンパニオンなど代表的なツールの特徴と使い分けを理解し、自社に最適なツールを選択できるようになる。議事録作成にとどまらず、文字起こしデータを引き継ぎ資料や新人教育、営業力向上に活用する発展的な使い方も紹介する。テキストデータの価値を最大化するAI活用術を習得する。

●到達目標

【ねらい】 議事録作成を単なる記録業務ではなく、組織の知識資産を蓄積・活用する機会として捉える視点を養う。文字起こしデータの多様な活用可能性を理解する。
【目標】 主要なAI文字起こしツールの特徴を理解し、用途に応じて適切なツールを選択できるようになる。効果的な議事録作成プロンプトを設計できるようになる。文字起こしデータを営業教育や引き継ぎ資料など、議事録以外の用途に活用する方法を習得する。

●授業内容

AI議事録ツールとしてNotta、TLDV、Zoom AIコンパニオンの3種類を比較し、日本語対応、オフライン対応、コスト面などの観点から特徴を解説する。Nottaはフィラー除去や単語登録機能に優れ、TLDVは時間制限なしで多言語対応に強い点を紹介する。議事録作成プロンプトでは、役割・目的・出力形式の3要素を意識した設計方法を学ぶ。合意事項と未合意事項の明確化、次のアクションの抽出など、実務で役立つ出力フォーマットを実践する。さらに、営業スクリプトの比較分析による営業力向上、引き継ぎ資料の自動生成、新人教育への活用など、議事録データの発展的な活用方法を紹介する。

【第4回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	社内ノウハウの集約（GPTs作成）
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	河原田 茉莉（UNFRAME）

●講師情報

大手化粧品メーカーで約10年、商品企画・ブランド開発に従事。独立後は化粧品・美容領域に特化し、新規ブランドや新商品の支援を行う。AIを活用した「コンセプト設計～世界観構築」を強みに、AI×ブランディング講座を主宰。セミナー累計参加者300名超の実績を持つ。

●科目概要

ChatGPTの有料機能であるGPTsを活用し、専門性を持たせたオリジナルチャットボットの作成方法を学ぶ。GPTsはスマートフォンにおけるアプリのような存在であり、特定の業務に特化したAIアシスタントを構築できる。社内の質問対応ボットや文章作成ボットなど、実務で即活用可能なGPTsを実際に作成しながら、プロンプト設計の実践力を高める。

●到達目標

【ねらい】 GPTsの仕組みと可能性を理解し、AIを活用したマネタイズや業務効率化の第一歩を踏み出す。プロンプトの構造を理解することで、GPTs作成の基盤を築く。
【目標】 GPTsの基本的な作成手順を習得し、独自のチャットボットを構築できるようになる。役割設定、ルール定義、知識の付与、指示出しの4要素を理解し、実践できるようになる。作成したGPTsを活用したサービス提供やマネタイズの可能性を理解する。

●授業内容

GPTsの概念を解説し、ChatGPTがスマートフォンならGPTsはアプリであるという位置づけを理解する。GPTsで実現できることとして、質問対応チャットボット、文章作成ボット、業務特化型アシスタントなどの事例を紹介。GPTs作成の3ステップとして、操作方法の習得、プロンプトのカスタマイズ、オリジナルGPTsの構築を順に実践する。指示文の設計では、役割の付与、ルールの設定、知識データの読み込み、具体的な指示出しの方法を学ぶ。実践演習として、パワハラ防止のための言い換えボットなど、実用的なGPTsを作成する。GPTsのマネタイズ事例も紹介し、スキルを収益化する可能性を示す。

【第5回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	事業企画の作り方
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

AIを活用した競合調査から事業企画立案、スライド資料作成までの一連のフローを学ぶ。Perplexityによる出典付き情報収集、ChatGPTでの企画立案、Gammaを使ったスライド自動生成など、複数のAIツールを連携させた効率的な事業企画プロセスを習得する。実在企業を題材にしたケーススタディを通じて、実践的なスキルを身につける。

●到達目標

【ねらい】 AIツールを単体で使うのではなく、複数のツールを組み合わせて相乗効果を生み出す発想を身につける。事業企画における情報収集から資料作成までの全体像を把握する。
【目標】 Perplexityを使って出典付きの市場調査・競合調査ができるようになる。収集した情報をChatGPTで整理・分析し、事業企画案を立案できるようになる。GammaやNotebook LMを活用して、調査結果や企画内容を視覚的に分かりやすいスライドにまとめられるようになる。

●授業内容

Perplexityの特徴として、参照元リンク付きで情報を提供する点を解説し、信頼性の高い市場調査手法を学ぶ。中小企業のDX導入率など具体的なテーマで情報収集を実践する。収集した情報をChatGPTに連携させ、事業企画を立案するワークフローを構築する。Gammaを使ったスライド自動生成では、Googleドキュメントとの連携機能を活用し、テキスト情報から見栄えの良いプレゼン資料を作成する方法を実演する。ケーススタディとして実在企業を題材に、競合調査から事業企画提案までの一連の流れを体験する。ツール連携による業務効率化の可能性を実感する。

【第6回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	AIライティング技術①
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	大内 結貴（株式会社ミライブースト）

●講師情報

京都大学大学院修了。診断薬開発から教材制作、マーケティングまで多様な業界を経験し、論文執筆実績も持つ。豊富な企業研修実績を持つAI活用講師として、様々な業界・職種に対するカスタマイズ研修を提供する。Webライターとして実務経験を積み、AIを活用した効率的なライティング手法を確立している。

●科目概要

AIを活用した高品質な文章作成の基礎を学ぶ。SEO記事作成を題材に、キーワードリサーチの自動化、ユーザー検索意図に応じた記事構成法、品質管理と校正の効率化を習得する。ライティングの基本原則を理解した上でAIを活用することで、AIが出力した文章の品質を適切に評価・改善できる力を養う。

●到達目標

【ねらい】 AIに文章を書かせる際の基礎知識を身につけ、出力された文章が適切かどうかを判断できる目を養う。ライティングの基本原則を理解し、AIを効果的に活用する土台を築く。
【目標】 記事構成の基本（導入15%、本文70%、結論15%）を理解し、AIへの指示に反映できるようになる。キャンバスモードを活用した読解レベルの調整や文章の長さ変更ができるようになる。Perplexityを使った情報収集からChatGPTでの下書き作成までの一連のフローを習得する。

●授業内容

Webライティング市場の現状と、AI活用によるコンテンツ制作の効率化について解説する。記事構成の基本として、導入部・本文・結論の適切な配分と、各パートの役割を学ぶ。H2・H3見出しによる情報の階層化、読者の課題認識から解決策提示までの流れを理解する。CTAボタンの効果的な配置位置についても触れる。Perplexityを使ったキーワードリサーチと情報収集の実践を行い、収集した情報をChatGPTに連携させて記事の下書きを作成する。キャンバスモードを活用し、読解レベルの調整（幼稚園児～大学院レベル）や文章の長さ調整を実演する。

【第7回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	AIライティング技術②
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	大内 結貴（株式会社ミライブースト）

●講師情報

京都大学大学院修了。診断薬開発から教材制作、マーケティングまで多様な業界を経験し、論文執筆実績も持つ。豊富な企業研修実績を持つAI活用講師として、様々な業界・職種に対するカスタマイズ研修を提供する。Webライターとして実務経験を積み、AIを活用した効率的なライティング手法を確立している。

●科目概要

前回学んだライティングの基礎を発展させ、記事作成を効率化するGPTsの構築方法を学ぶ。Claudeを活用した文章のブラッシュアップ技術、AI生成記事の人間らしさを高める編集テクニックを習得する。一連のライティングワークフローを自動化し、継続的に高品質な記事を生産できる体制を構築する。

●到達目標

【ねらい】 ライティング業務を効率化するためのGPTs活用法を理解し、反復作業を自動化する発想を身につける。AI生成文章の品質を人の手で高める編集スキルを養う。
【目標】 記事下書き作成用のGPTsを構築し、情報入力から下書き生成までを効率化できるようになる。Claudeの日本語生成能力を活かした文章のブラッシュアップ手法を習得する。SEO強化のための編集ポイントを理解し、AI生成記事の品質を向上させられるようになる。

●授業内容

前回作成した下書きをもとに、記事作成を一発で行えるGPTsの構築手順を解説する。GPTsの構成画面での設定方法、指示文の貼り付け、推奨モデルの選択、機能の有効化について実践する。Claudeを使った文章のブラッシュアップでは、日本語生成に優れたClaudeの特性を活かし、AI生成文章をより自然で読みやすい文章に仕上げる方法を学ぶ。SEO強化のポイントとして、見出しの最適化、キーワードの適切な配置、読者の検索意図への対応について解説する。ライティングの単価相場や、専門性を高めることによる収益向上の可能性についても触れる。

【第8回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	自動化システムの作り方①
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

GPTsとGoogleスプレッドシートを連携させ、業務データの自動処理システムを構築する方法を学ぶ。Google Apps Script（GAS）を活用したAPI連携の基礎を習得し、レシート読み取りから経費データの自動入力まで、実務で即活用可能な自動化システムを実際に構築する。プログラミング未経験者でも取り組める内容である。

●到達目標

【ねらい】 システム連携による業務自動化の可能性を理解し、繰り返し作業をAIに任せる発想を身につける。付加価値の低い作業を自動化し、人間は考える仕事に集中する働き方を目指す。
【目標】 GPTsとスプレッドシートを連携させるための基本的な仕組み（スキーマ、GASコード）を理解する。レシート画像を読み取り、指定フォーマットでスプレッドシートに自動入力するシステムを構築できるようになる。エラー発生時の対処方法や、システムの調整方法を習得する。

●授業内容

システム連携のメリットとして、繰り返し作業の自動化、情報の自動整理、品質の均一化を解説する。GPTsからスプレッドシートへの一方向連携の仕組みを図解で説明する。レシート自動読み取りシステムの構築を実践し、GPTsの設定、スキーマの作成、GASコードの実装を順に行う。タクシー領収書などの実際のレシート画像を使って動作確認を行い、読み取り精度の向上方法を学ぶ。経費精算データの自動処理など、応用事例も紹介する。履歴書、アンケートなど、様々なデータの自動処理への応用可能性を示す。

【第9回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	自動化システムの作り方②
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

前回学んだ一方向連携を発展させ、GPTsとスプレッドシートの双方向連携システムを構築する。在庫管理ボットを題材に、スプレッドシートのデータ参照と更新の両方をGPTsから行えるシステムを実装する。要件定義の重要性を理解し、AIに曖昧さを与えない明確な指示を設計する方法を習得する。

●到達目標

【ねらい】 要件定義の重要性を理解し、AIへの指示における曖昧さがシステムの不具合につながることを認識する。双方向連携により、より実用的な業務システムを構築する視点を養う。
【目標】 GPTsからスプレッドシートのデータを参照・更新できる双方向連携システムを構築できるようになる。要件定義を自動生成するGPTsを作成し、システム開発の精度を高められるようになる。在庫確認、在庫更新、履歴管理などの機能を備えた実用的なボットを構築できるようになる。

●授業内容

前回の一方向連携と双方向連携の違いを解説し、相互連携によって実現できることを具体例で示す。要件定義の重要性について、「足して2になる数字」の例を使って、曖昧な指示がAIの出力を不安定にすることを説明する。要件定義を自動生成するGPTsの作成手順を実践し、スプレッドシート連携に特化した指示文を構築する。在庫管理ボットの構築では、在庫数の確認、在庫数の更新、最終更新日時の自動記録などの機能を実装する。複数ユーザーからの更新にも対応するリアルタイム連携の仕組みを理解する。

【第10回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	AI活用マーケティングとクライアント獲得戦略①
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	河原田 茉莉（UNFRAME）

●講師情報

大手化粧品メーカーで約10年、商品企画・ブランド開発に従事。独立後は化粧品・美容領域に特化し、新規ブランドや新商品の支援を行う。AIを活用した「コンセプト設計〜世界観構築」を強みに、AI×ブランディング講座を主宰。セミナー累計参加者300名超の実績を持つ。

●科目概要

AIを活用したInstagramマーケティングの基礎から実践までを学ぶ。市場分析、競合調査、アカウント設計、投稿文作成の一連のフローをAIツールで効率化する方法を習得する。3C分析の考え方をSNSマーケティングに応用し、戦略的なアカウント運営の土台を構築する。今回はテキストコンテンツの作成に焦点を当てる。

●到達目標

【ねらい】 SNSマーケティングにおける戦略的思考を身につけ、闇雲に投稿するのではなく、市場・競合・自社の分析に基づいたアカウント設計の重要性を理解する。
【目標】 DeepResearchを活用した市場分析・トレンド調査ができるようになる。競合アカウントの分析手法を理解し、自社の差別化ポイントを明確にできるようになる。ChatGPT・Claudeを活用して、ターゲットに響く投稿文を効率的に作成できるようになる。

●授業内容

Instagramの現在の位置づけとして、「同じ価値観の人と繋がる場所」というビジョンを解説し、アルゴリズムの基本的な考え方を理解する。SNSマーケティングの全体フローとして、市場調査、競合分析、アカウント設計、テーマ選び、文章作成、デザイン、投稿、分析、改善のサイクルを示す。
DeepResearchを使った市場トレンドの調査を実践し、ターゲット層の心理・行動分析を行う。3C分析をInstagramに応用し、コンセプト、ターゲット、コンテンツの3要素を明確化する。ChatGPTを使った投稿文の作成では、ユーザーの検索意図に応じた構成と表現を学ぶ。

【第11回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	AI活用マーケティングとクライアント獲得戦略②
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	河原田 茉莉（UNFRAME）

●講師情報

大手化粧品メーカーで約10年、商品企画・ブランド開発に従事。独立後は化粧品・美容領域に特化し、新規ブランドや新商品の支援を行う。AIを活用した「コンセプト設計〜世界観構築」を強みに、AI×ブランディング講座を主宰。セミナー累計参加者300名超の実績を持つ。

●科目概要

前回のInstagramテキスト投稿に続き、視覚的なコンテンツ作成に焦点を当てる。AIを活用したサムネイル画像の作成、効果的なキャッチコピーの自動生成、画像生成AIの実践的活用方法を習得する。デザイン未経験者でも、ターゲットに響くビジュアルコンテンツを効率的に作成できるスキルを身につける。さらに、投稿後のインサイト分析をAIで自動化する手法も学ぶ。

●到達目標

【ねらい】 デザインスキルがなくても、AIツールを駆使することで、プロレベルのビジュアルコンテンツが作成できることを体感する。
【目標】 AIを活用して、ターゲットに響くキャッチコピーを効率的に生成したり、インサイトデータを分析し、改善提案を得る仕組みを構築する。画像生成AIとCanvaを組み合わせた、文字入りビジュアルの作成手法を習得する。競合投稿のデザイン傾向を分析し、自社のコンテンツに活かす方法を理解する。

●授業内容

キャッチコピー生成では、リサーチ結果をもとにターゲット心理を分析し、専用GPTsを活用したタイトル案の自動生成を実践する。画像作成では、Imagen 3の思考モードを活用した高精度な文字入り画像生成と、Canvaでのテンプレート活用やトレース技術を習得し、統一感のあるデザインを効率的に制作する方法を学ぶ。競合分析として、発見欄の投稿をChatGPTで分析し、構図・色使い・フォントの傾向を把握してテンプレートに反映させる手法を理解する。インサイト分析では、投稿データをAIに読み込ませるだけで課題抽出と改善提案を得られる自動分析の仕組みを構築し、PDCAサイクルを効率化する。

【第12回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	自動化ツールによるGmail自動返信システムの作成①
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

自動化プラットフォーム(n8n)を活用し、メール受信から返信文の自動下書き保存まで一気通貫で自動化するシステムを構築する。AIエージェントの概念を理解し、複数のツールやサービスを連携させた高度な業務自動化の基礎を習得する。ツールの特徴と強みを理解し、実務での活用イメージを具体化する。

●到達目標

【ねらい】 単純なAI活用から一歩進んで、AIを中心とした複数システムの連携による真の業務自動化を体験し、24時間稼働するデジタル執事のような仕組みを自ら構築できることを実感する。
【目標】 n8nの基本構造であるトリガーとアクションの関係を理解し、Gmail連携の設定ができるようになる。AIエージェントを活用して、返信を自動生成する仕組みを構築したり、ChatGPT APIを接続し、生成された返信文をGmailの下書きに自動保存する一連のワークフローを完成させる。

●授業内容

n8nの特徴として、セルフホストによる機密情報の保護、高度な処理への対応力などを理解する。基本的なワークフロー構築では、Gmailの受信をトリガーとし、AIエージェントがメール内容を読み取ってChatGPTに指示を送り、生成された返信文を自動で下書き保存する一連の流れを実装する。ChatGPT APIの連携設定を行い、自社の営業時間や会社情報などを正確に反映させる方法を学ぶことで、信頼性の高い自動返信システムを実現する。エラー発生時の対処法や、ハルシネーションを防ぐ工夫や、AIアシスタント機能を活用したトラブルシューティングの基本も習得する。

【第13回】AIキャリアアップコース

コース名	形式	科目名
AIキャリアアップコース	オンライン	自動化ツールによるGmail自動返信システムの作成②
総時間	受講対象者	講師
1.5	全員	村上 大輔（株式会社ぱるぷんて）

●講師情報

トヨタ自動車に10年以上勤務し、生産技術エンジニアやコネクティッド関係の事業企画を担当。トヨタ時代には、工場建設やインフラ構築のためにインドやロシアに赴任した経験や、出張ベースで10カ国以上の国で仕事をしてきた経験を持つ。現在は、株式会社ぱるぷんてを立ち上げ、AI事業とWebマーケティングを専門とした事業を営んでいる。

●科目概要

前回構築した基本的なメール自動返信システムをさらに発展させ、実務で即戦力となる高度な自動化ワークフローを構築する。条件分岐による処理の振り分け、添付ファイルの自動保存、特定条件でのアラート通知など、より複雑な業務要件に対応できるn8nの応用技術を習得する。

●到達目標

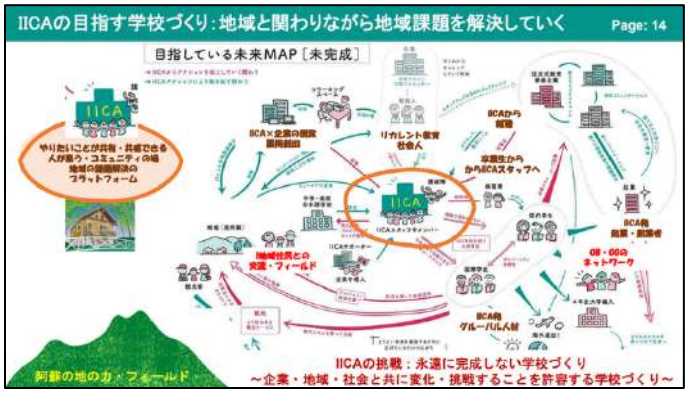
【ねらい】 単純な自動返信を超えて、業務の複雑な要件に柔軟に対応できる自動化システムの設計思想を理解し、自社の業務プロセスに応じたカスタマイズができる応用力を身につける。
【目標】 条件分岐を活用して、メール内容に応じて処理を振り分けるワークフローの構築や、添付ファイルを自動的にクラウドストレージに保存する機能を実装できるようになる。社内マニュアルやFAQをAIエージェントに参照させ、ルールに基づいた一貫性のある返信を生成する仕組みを作れるようになる。

●授業内容

条件分岐の実装では、メール内容や送信者によって異なる対応を自動で振り分ける仕組みを構築し、業務効率化とミスの削減を実現する。添付ファイルの自動保存機能を使い、重要な書類を即座にクラウド上に整理・保管する流れを学ぶ。社内マニュアルをAIエージェントに読み込ませることで、誰でも同じ品質の対応ができる仕組みを構築し、メール以外のツールとの連携では、通知機能や自動レポート作成など、より広範な業務自動化の可能性を探る。実務への応用例として、ECサイト運営、広告運用、社内ナレッジ管理など、様々な業種・職種で活用できる、24時間稼働の専用自動化システムの完成を目指す。

◎講座の実施・教材（IT 利活用コース）

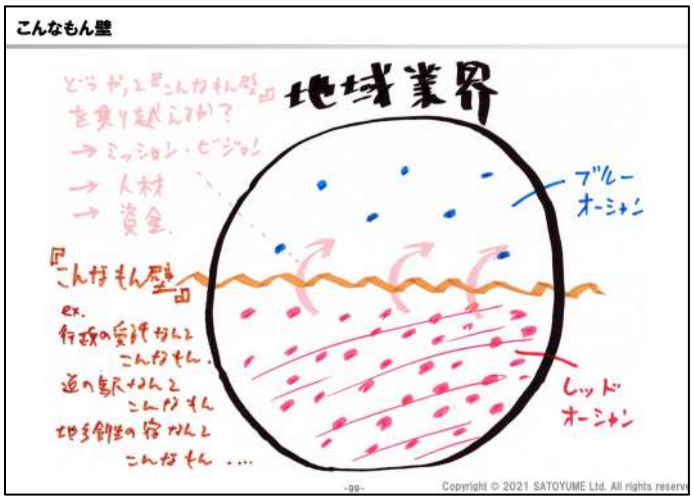
【第 1 回】 講師：井手　修身 ・ ゼミ講師（久保/鈴木/廣瀬）
受講者数：12 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 7 月 17 日(木) 19:00～20:30
【科目名】オリエンテーション＋ゼミ始動キックオフ
【概要】
プログラムの開始にあたり、学長の井手氏より「地域で動くことの動機付けと重要性」について講義が行われた。単なる知識習得に留まらず、動くことで地域を変えていくという本講座のスタンスを共有。後半は、廣瀬氏・鈴木氏を交えたゼミ概要説明と配属発表を行い、ゼミ別の自己紹介（名前・所属・活動地域・参加動機）を実施した。参加者が 2 回目以降のプログラムに主体的に取り組めるよう、個々の課題感の洗い出しとゴール設定を行い、前向きに学び合えるコミュニティの土台を築く始動回となった。



【第 2 回】 講師：家本　賢太郎
受講者数：13 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 7 月 24 日(木) 19:00～20:30
【科目名】まちの移動の、つぎの習慣をつくる
～シェアサイクルを通じたまちづくりへの貢献～
【概要】
シェアサイクル『チャリチャリ』を運営する家本氏を招き、地域インフラ革新に挑む起業ストーリーと、既存の枠組みを突破して「新しい習慣」を定着させるための事業創造の手法を、業界トップランナーの視点から解説。「情報の透明性と熱量あるコミュニケーション」が地域での実装を左右することを、福岡や熊本での具体事例を交えて解説した。受講生からは、収益性と社会貢献を両立させる事業モデルや、行政・地場企業を巻き込むための合意形成の進め方について、自身の地域に照らし合わせた具体的な質問が相次いだ。後半のゼミ別ワークでは、講義内容を自身の地域・組織にどう転用できるかを深掘りし、規模感の異なる地方プレイヤーの視点で議論した。



【第 3 回】講師：嶋田　俊平
受講者数：13 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 8 月 1 日(金) 19:00～20:30
【科目名】滞在型・高付加価値型観光事業のつくり方
～株式会社さとゆめの挑戦～
【概要】
分散型ホテル事業の実践者である嶋田氏より、地域資源を再定義し、高付加価値な観光事業を確立するための 5 つのポイントが公開された。「量から質へ」の転換や、宿泊を軸とした滞在型モデルの構築プロセスを解説し、地域全体と連携して付加価値を高めることの重要性を強調した。ゼミ別ワークでは、参加者の視点から活かせる要素を振り返り、自地域の魅力を再発見するための具体的な手法を共有。事業化の障壁となる「こんなもん壁」の突破方法など、収益性と地域貢献を両立させる実践的な戦略プランの土台を固める回となった。



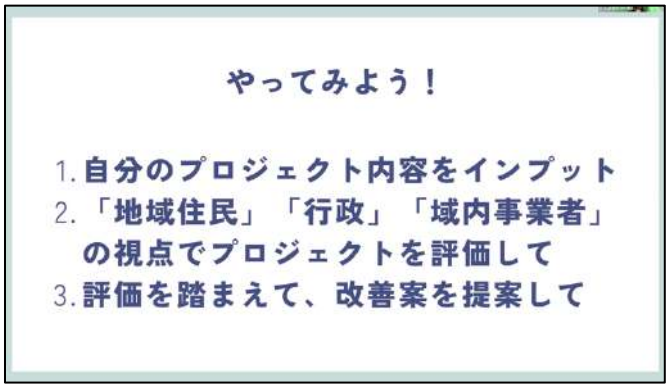
【1 泊 2 日　現地研修】講師：久保　尭之　・　ゼミ講師(鈴木/廣瀬)
受講者数：12 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 8 月 2 日(土) 13:00～17:00 / 3 日(日) 9:00～14:00
【科目名】南阿蘇フィールドワーク＋対面ゼミ探求
【概要】
1 泊 2 日の行程で、南阿蘇村をフィールドに IT 活用の現場視察と対面ゼミを実施した。南阿蘇観光局の久保氏による案内のもと、宿泊施設や観光コンテンツにおけるデジタル活用の実態を視察。夜の懇親会を含めた対面での交流により、受講生同士の関係性が一気に深まった。2 日目は、視察での気づきを自地域のプランに落とし込む「戦略プラン」策定ワークを行い、講師陣から直接フィードバックを受けた。オンラインでは得られない現場の熱量に触れることで、各自が抱える地域課題への解像度が向上し、最終発表に向けたアクションプランの骨子が固まった。





【第 4 回】講師：ゼミ講師（久保/鈴木/廣瀬）
受講者数：12 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 8 月 7 日(木) 19:00～20:30
【科目名】課題深掘り&実装検討セッション
【概要】
現地研修での気づきを言語化し、各自のアクションプランへ反映させるための集中検討セッション。各ゼミ講師による伴走のもと、プランの具体性と実装可能性を徹底的に磨き上げた。久保ゼミでは商品開発と官民連携、鈴木ゼミでは外国人市場と人材育成、廣瀬ゼミでは SNS と AI を活用した広報戦略など、個別の文脈に合わせた深掘りを実施。単

なる構想で終わらせず、「誰が・いつ・何を動かすか」という実装レベルまでプランを昇華させる、極めて密度の高い実務的な時間となった。



【第 5 回】講師：村山　慶輔
受講者数：13 名
形式：リアルタイム配信
日時：2025 年 8 月 21 日(木) 19:00～20:30
【科目名】地域の魅力を“世界に届ける”方法
～インバウンド時代の観光マーケティングと IT 活用術～
【概要】
株式会社やまとごころの村山氏を招き、インバウンドの最新潮流と IT を駆使した集客戦略について講義が行われた。地域の「当たり前」を世界の「特別」に変える発想法や、Google マップ・OTA・レビュー活用など、明日から着手できる 3 ステップの具体策を提示。宿泊・飲食・体験それぞれの業種における「選ばれる 5 視点」が語られた。受講生は、これまでに練り上げたプランに「グローバルな視点」を掛け合わせ、最終的なブラッシュアップを実施。世界から選ばれる地域になるための情報発信の重要性を再認識する回となった。



【第 6 回】講師:井手　修身 ・ ゼミ講師（久保/鈴木/廣瀬）
受講者数:12 名
形式:リアルタイム配信
日時:2025 年 8 月 31 日(日) 13:30～16:30
【科目名】
最終レビュー&セッション　成果発表フィードバック
【概要】
プログラムの締めくくりとして、受講生が「明日からのアクション」を発表した。2 ヶ月間の講義や現地研修での学びを凝縮し、自地域における滞在型・高付加価値型観光の推進に向けた具体的な事業計画や IT 活用策を披露。各講師からは、プランの実効性を高めるためのアドバイスや期待を込めたフィードバックが贈られた。最後は井手校長による総括が行われ、修了後も互いに切磋琢磨し合える「ラーニングコミュニティ」としての継続的な繋がりを確認。全プログラムを完遂し、受講生がそれぞれの現場で最初の一歩を踏み出すための力強い締めくくりとなった。





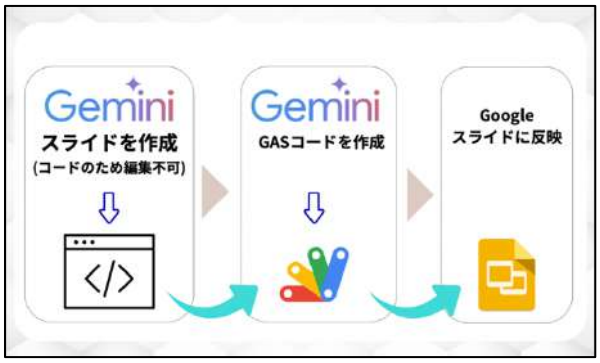


◎講座の実施・教材（AI キャリアアップコース）

【第 1 回】講師：村上　大輔
受講者数：83 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 10 月 1 日(水) 20:00～21:30
【科目名】生成 AI 活用の目的と基礎
【概要】
主要な 3 大 AI ツール、ChatGPT、Claude、Gemini の特徴を比較し、日本語対応や Google 連携などを把握する。最適なツールを使い分けることで、高品質なアウトプットを生み出せるため、プロンプト作成では、AI に役割、コンテキスト、制約条件を明確に伝える方法を学ぶ。ChatGPT では、カスタム指示、メモリ機能の活用法を解説し、出力文章の読解レベルや長さを調整するキャンバスモード、定期情報収集のスケジュール機能も実演。Gemini では、インフォグラフィックでレポートを作成できる強みを活かし、生成コードを Google サイトに埋め込んで資料をウェブサイトとして公開・共有する効率的な方法を実演する。複数の AI ツールを組み合わせた活用戦略を紹介し、市場調査用の Perplexity を活用し、ChatGPT に連携させて事業企画を作成する実践例を通して、ツール連携による業務効率向上を目指す。



【第 2 回】講師：村上　大輔
受講者数：77 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 10 月 8 日(水) 20:00～21:30
【科目名】社内マニュアルの作成
【概要】
既存ルールのマニュアル化と新規マニュアル作成の 2 種類のアプローチを解説する。Felo の検索機能と AI スライド作成機能を活用し、テキスト情報を視覚的に分かりやすいスライド形式に変換する方法を実践する。プロンプトの構成として、シンプルな指示でも効果的なアウトプットを得るコツを紹介する。NotebookLM を使った情報の統合・整理手法を学び、複数の資料を一元管理する方法を習得する。AI は知恵の勝負であり、1 つのスキルを様々な業務に応用する視点が重要であることを強調し、自社のサービス説明や商品説明、社内規定など、様々な場面への応用方法を考える。

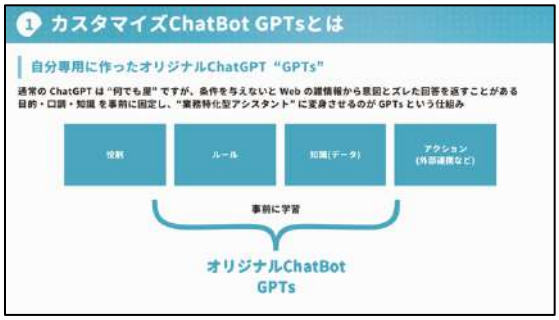


【第 3 回】講師：河原田　茉莉
受講者数：70 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 10 月 15 日(水) 20:00～21:30
【科目名】議事録作成の効率化
【概要】
AI 議事録ツールとして Notta、TLDV、Zoom AI コンパニオンの 3 種類を比較し、日本語対応、オフライン対応、コスト面などの観点から特徴を解説する。Notta はフィラー除去や単語登録機能に優れ、TLDV は時間制限なしで多言語対応に強い点を紹介する。議事録作成プロンプトでは、役割・目的・出力形式の 3 要素を意識した設計方法を学ぶ。合意事項と未合意事項の明確化、次のアクションの抽出など、実務で役立つ出力フォーマットを実践する。さらに、営業スクリプトの比較分析による営業力向上、引き継ぎ資料の自動生成、新人教育への活用など、議事録データの発展的な活用方法を紹介する。



【第 4 回】講師：河原田　茉莉
受講者数：82 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 10 月 22 日(水) 20:00～21:30
【科目名】社内ノウハウの集約（GPTs 作成）
【概要】
GPTs の概念を解説し、ChatGPT がスマートフォンなら GPTs はアプリであるという位置づけを理解する。GPTs で実現できることとして、質問対応チャットボット、文章作成ボット、業務特化型アシスタントなどの事例を紹介。GPTs 作成の 3 ステップとして、操作方法の習得、プロンプトのカスタマイズ、オリジナル GPTs の構築を順に実践する。指示文の

設計では、役割の付与、ルールの設定、知識データの読み込み、具体的な指示出しの方法を学ぶ。実践演習として、パワハラ防止のための言い換えボットなど、実用的な GPTs を作成する。GPTs のマネタイズ事例も紹介し、スキルを収益化する可能性を示す。



【第 5 回】講師：村上　大輔
受講者数：63 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 10 月 29 日(水) 20:00～21:30
【科目名】事業企画の作り方
【概要】
Perplexity の特徴として、参照元リンク付きで情報を提供する点を解説し、信頼性の高い市場調査手法を学ぶ。中小企業の DX 導入率など具体的なテーマで情報収集を実践する。収集した情報を ChatGPT に連携させ、事業企画を立案するワークフローを構築する。Gamma を使ったスライド自動生成では、Google ドキュメントとの連携機能を活用し、テキスト情報から見栄えの良いプレゼン資料を作成する方法を実演する。ケーススタディとして実在企業を題材に、競合調査から事業企画提案までの一連の流れを体験する。ツール連携による業務効率化の可能性を実感する。

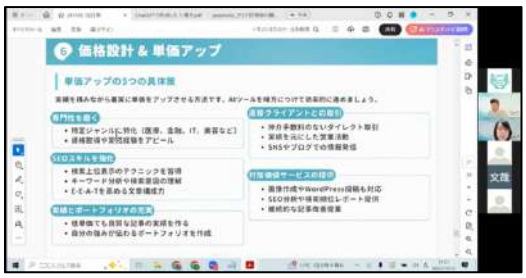


【第 6 回】講師：大内　結貴
受講者数：71 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 11 月 5 日(水) 20:00～21:30
【科目名】AI ライティング技術①
【概要】
Web ライティング市場の現状と、AI 活用によるコンテンツ制作の効率化について解説する。記事構成の基本として、導入部・本文・結論の適切な配分と、各パートの役割を学

ぶ。H2・H3 見出しによる情報の階層化、読者の課題認識から解決策提示までの流れを理解する。CTA ボタンの効果的な配置位置についても触れる。Perplexity を使ったキーワードリサーチと情報収集の実践を行い、収集した情報を ChatGPT に連携させて記事の下書きを作成する。キャンバスモードを活用し、読解レベルの調整（幼稚園児～大学院レベル）や文章の長さ調整を実演する。

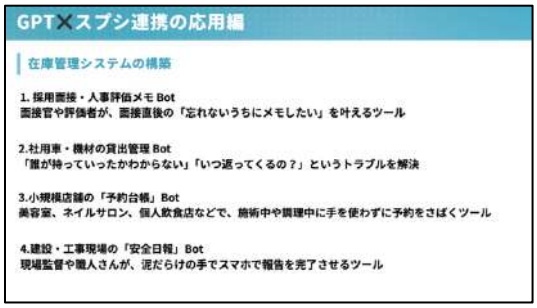


【第 7 回】講師：大内　結貴
受講者数：63 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 11 月 12 日(水) 20:00～21:30
【科目名】AI ライティング技術②
【概要】
前回作成した下書きをもとに、記事作成を一発で行える GPTs の構築手順を解説する。GPTs の構成画面での設定方法、指示文の貼り付け、推奨モデルの選択、機能の有効化について実践する。Claude を使った文章のブラッシュアップでは、日本語生成に優れた Claude の特性を活かし、AI 生成文章をより自然で読みやすい文章に仕上げる方法を学ぶ。SEO 強化のポイントとして、見出しの最適化、キーワードの適切な配置、読者の検索意図への対応について解説する。ライティングの単価相場や、専門性を高めることによる収益向上の可能性についても触れる。



【第 9 回】講師：村上　大輔
受講者数：55 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 11 月 26 日(水) 20:00～21:30
【科目名】自動化システムの作り方②
【概要】
前回の一方向連携と双方向連携の違いを解説し、相互連携によって実現できることを具

体例で示す。要件定義の重要性について、「足して 2 になる数字」の例を使って、曖昧な指示が AI の出力を不安定にすることを説明する。要件定義を自動生成する GPTs の作成手順を実践し、スプレッドシート連携に特化した指示文を構築する。在庫管理ボットの構築では、在庫数の確認、在庫数の更新、最終更新日時の自動記録などの機能を実装する。複数ユーザーからの更新にも対応するリアルタイム連携の仕組みを理解する。



【第 10 回】講師：河原田　茉莉
受講者数：49 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 12 月 3 日(水) 20:00～21:30
【科目名】AI 活用マーケティングとクライアント獲得戦略①
【概要】
Instagram の現在の位置づけとして、「同じ価値観の人と繋がる場所」というビジョンを解説し、アルゴリズムの基本的な考え方を理解する。SNS マーケティングの全体フローとして、市場調査、競合分析、アカウント設計、テーマ選び、文章作成、デザイン、投稿、分析、改善のサイクルを示す。DeepResearch を使った市場トレンドの調査を実践し、ターゲット層の心理・行動分析を行う。3C 分析を Instagram に応用し、コンセプト、ターゲット、コンテンツの 3 要素を明確化する。ChatGPT を使った投稿文の作成では、ユーザーの検索意図に応じた構成と表現を学ぶ。

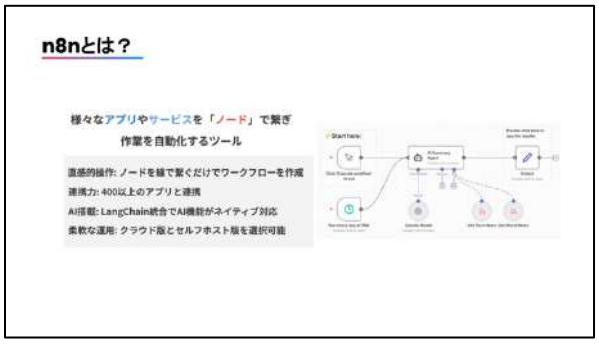


【第 11 回】講師：河原田　茉莉
受講者数：50 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 12 月 10 日(水) 20:00～21:30
【科目名】AI 活用マーケティングとクライアント獲得戦略②
【概要】

キャッチコピー生成では、リサーチ結果をもとにターゲット心理を分析し、専用 GPTs を活用したタイトル案の自動生成を実践する。画像作成では、Imagen3 の思考モードを活用した高精度な文字入り画像生成と、Canva でのテンプレート活用やトレース技術を習得し、統一感のあるデザインを効率的に制作する方法を学ぶ。競合分析として、発見欄の投稿を ChatGPT で分析し、構図・色使い・フォントの傾向を把握してテンプレートに反映させる手法を理解する。インサイト分析では、投稿データを AI に読み込ませるだけで課題抽出と改善提案を得られる自動分析の仕組みを構築し PDCA サイクルを効率化する。



【第 12 回】講師：村上　大輔
受講者数：45 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 12 月 17 日(水) 20:00～21:30
【科目名】自動化ツールによる Gmail 自動返信システムの作成①
【概要】
n8n の特徴として、セルフホストによる機密情報の保護、高度な処理への対応力などを理解する。基本的なワークフロー構築では、Gmail の受信をトリガーとし、AI エージェントがメール内容を読み取って ChatGPT に指示を送り、生成された返信文を自動で下書き保存する一連の流れを実装する。ChatGPT API の連携設定を行い、自社の営業時間や会社情報などを正確に反映させる方法を学ぶことで、信頼性の高い自動返信システムを実現する。エラー発生時の対処法や、ハルシネーションを防ぐ工夫や、AI アシスタント機能を活用したトラブルシューティングの基本も習得する。



【第 13 回】講師：村上　大輔
受講者数：57 名
形式：リアルタイム配信・アーカイブ配信
日時：2025 年 12 月 24 日(水) 20:00～21:30

【科目名】自動化ツールによる Gmail 自動返信システムの作成②

【概要】

条件分岐の実装では、メール内容や送信者によって異なる対応を自動で振り分ける仕組みを構築し、業務効率化とミスの削減を実現する。添付ファイルの自動保存機能を使い、重要な書類を即座にクラウド上に整理・保管する流れを学ぶ。社内マニュアルを AI エージェントに読み込ませることで、誰でも同じ品質の対応ができる仕組みを構築し、メール以外のツールとの連携では、通知機能や自動レポート作成など、より広範な業務自動化の可能性を探る。実務への応用例として、EC サイト運営、広告運用、社内ナレッジ管理など、様々な業種・職種で活用できる、24 時間稼働の専用自動化システムの完成を目指す。



【6】リカレント教育・受講生アンケート調査

【調査目的】

本事業の①IT 利活用コース、②AI キャリアアップコースを受講した受講生について、受講した後のカリキュラムの評価、授業の満足度、理解度をアンケート調査し、その分析を行い、次年度のシラバス、教材、授業の実施構成についての検証をおこなう。

【調査対象】

受講生へのアンケート調査

→IT 利活用コース：10 名 ／ AI キャリアアップコース：47 名　　**計：57 名**

【調査方法】

受講生への Google フォーム等でのアンケート

【調査項目】

・リカレント教育授業の満足度、理解度

・授業の内容、受講構成（時期、時間数、教員、教材、学習計画、形態、対面実施とリアルタイム型オンラインとアーカイブ等）について

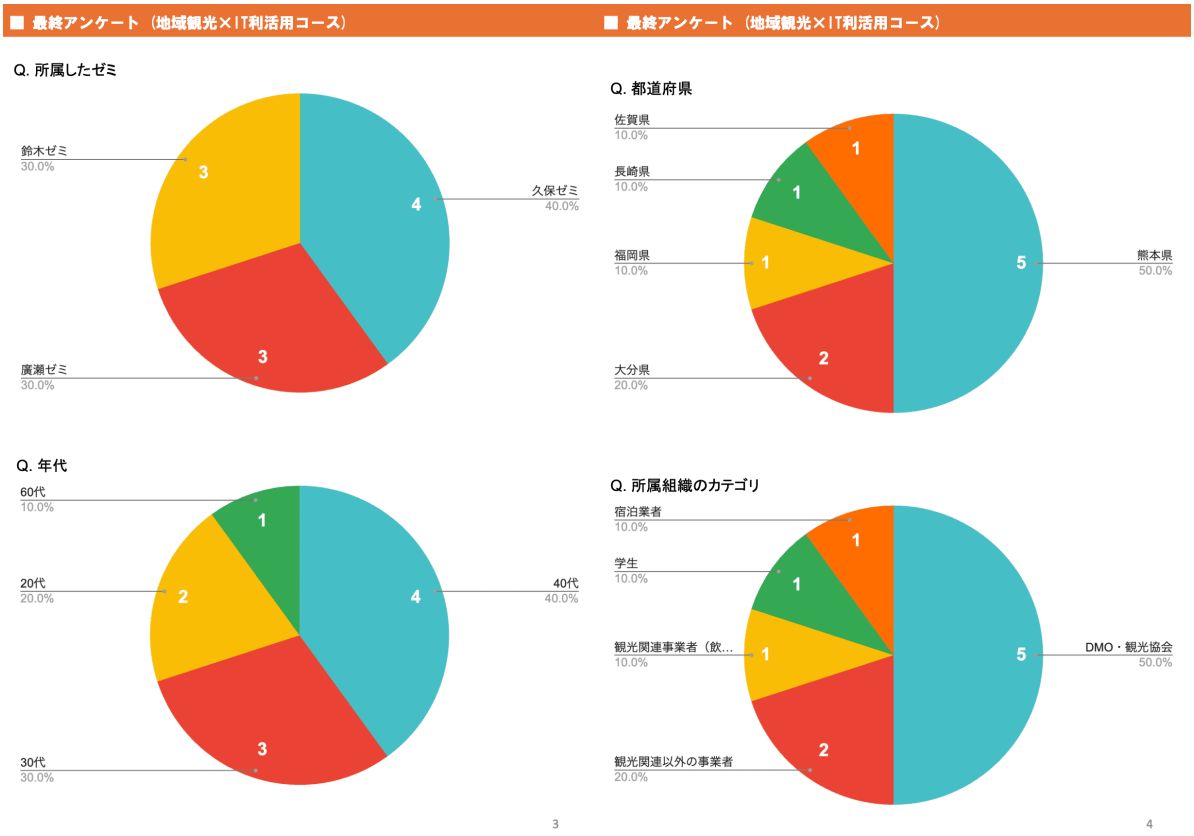
【分析内容】

受講した後のカリキュラムの評価、授業の満足度、理解度をアンケート調査し、その分析を行い、次年度のシラバス、教材、授業の実施構成についての検証をおこなう。

【学び直し講座への反映】

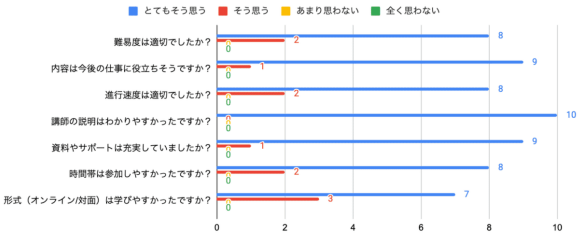
授業の時期、時間数、教員、教材、学習指導計画、形態等に反映する。対面形式、リアルタイム型オンライン、アーカイブについての理解度、利便性、需要希望など。

◎IT 利活用コース「社会人向けスキルアップ講座」最終アンケート（抜粋）

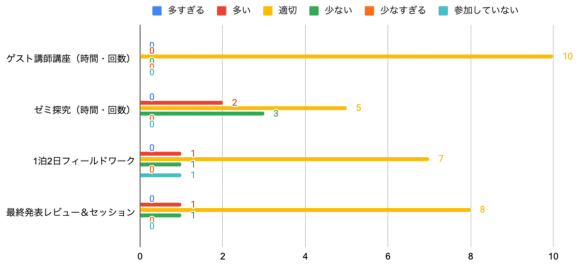


■ 最終アンケート（地域観光×IT利活用コース）

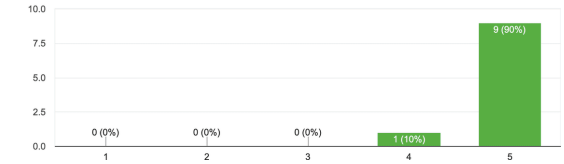
Q. 今回の講座について教えてください。



Q. 講座の構成について教えてください。

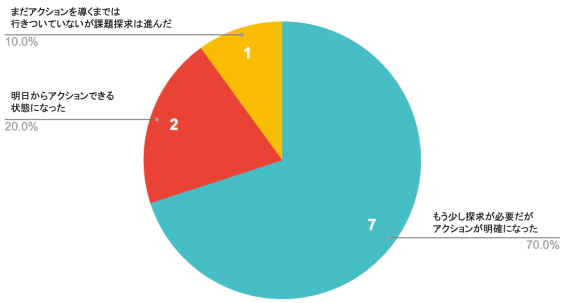


Q. 全体を通してのゼミ満足度を教えてください。



■ 最終アンケート（地域観光×IT利活用コース）

Q.ご自身が挙げられた「探求課題」について、"明日からアクションできる"状態になりましたか。



Q.講座の内容や構成、ゼミについて感想やご意見があればお聞かせください。(n=6)

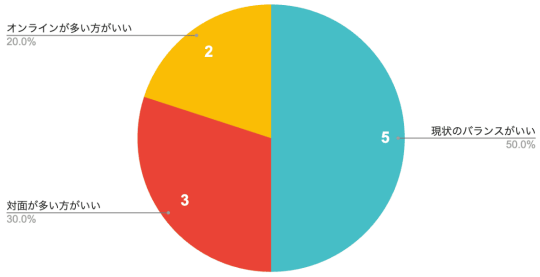
- ゼミ形式はオンラインでは意見のやり取りが出来て参画意欲が高まった。
- インプットとアウトプットの両方が充実しており、両者を通じて様々なことを考えさせられた、とてもバランスがよく充実した講座だったと感じます。
- 長期間ありがとうございました。講師のお話が毎度、非常に勉強になりました。
- ゼミワークが大変でしたが主体的に取り組むきっかけとなりました。
- 諸事情により、フィールドワークまでの参加となってしまいましたが、内容や構成はわかりやすく次のアクションへのヒントも発見しやすい環境にあると思いました。
- ゲスト講師の方の貴重なお話を聞く時間もたくさんあり、その内容がアーカイブで共有されるので、見返すことができて大変良かったです。また、ほぼ1週間ごとなので次の講座までに自分で予習復習する時間も確保できて、ペース配分も取りやすかったと感じました。 また、ゼミではそれぞれの悩みに対して先生から細かいところまでアドバイスをいただけて、より明日からのアクションを意識できる状態になれたと感じています。

Q.今後、取り上げてほしいテーマや内容があれば教えてください。(n=5)

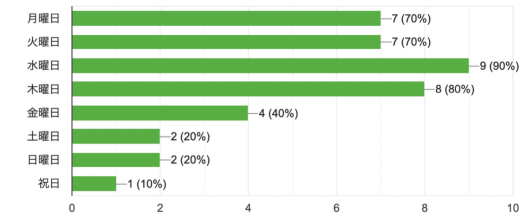
- 地域の魅力発見する街歩きのプランづくり
- ITの中でもAIによる業務運用に特化したようなテーマ
- 地域ブランディングの事例について
- 今のままで良いと思います。
- 個人的に興味があるのが、海外からみた日本（九州、阿蘇）の魅力・観光について興味があるので、外国人視点でのこのようなテーマに基づいたお話を聞いてみたいと感じました。

■ 最終アンケート（地域観光×IT利活用コース）

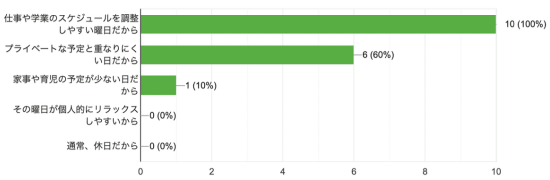
Q.オンライン形式と対面形式（フィールドワーク）の割合について、どう感じましたか？



Q.参加しやすい曜日(※複数選択可能)

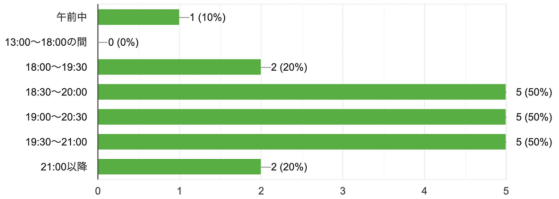


Q.参加しやすい理由(※複数選択可能)

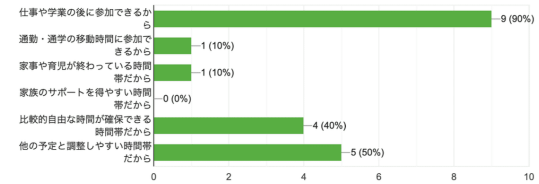


■ 最終アンケート（地域観光×IT利活用コース）

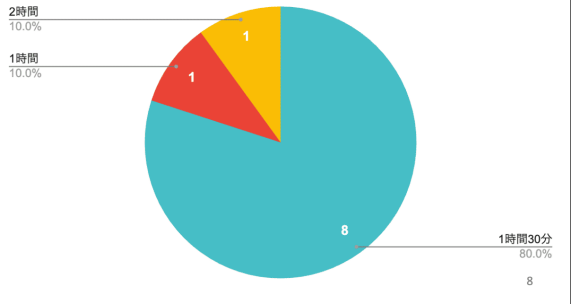
Q.リアルタイムで参加しやすい時間帯 (※複数選択可)



Q.参加しやすい理由(※複数選択可)



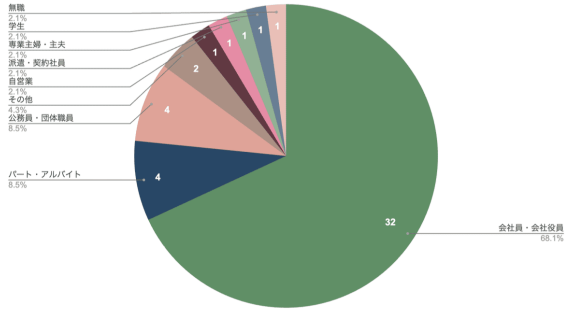
Q. 講義1回あたりの時間で最も適切だと思うものを選択してください。



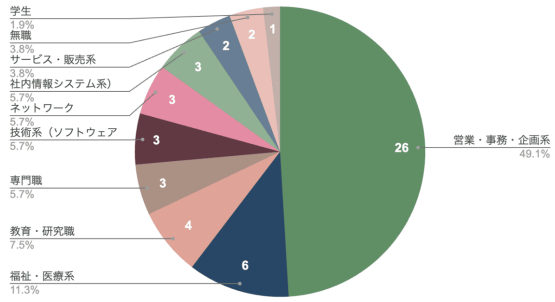
◎AI キャリアアップコース「初心者歓迎！AI キャリアアップコース」最終アンケート（抜粋）

■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース）

Q. 職業のカテゴリ (雇用形態)



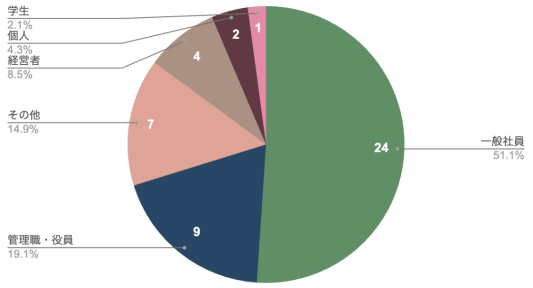
Q. 職業のカテゴリ (タイプ)



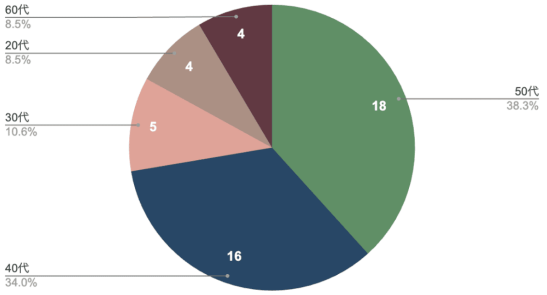
17

■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース）

Q. 役職



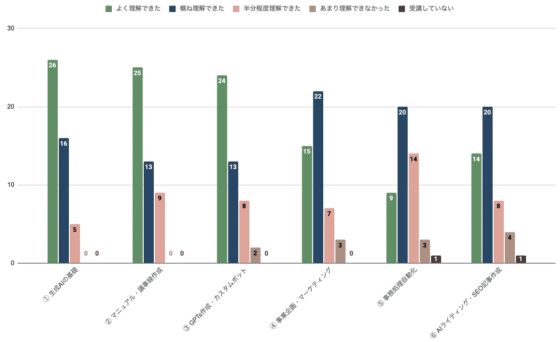
Q. 年代



18

■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース）

Q. 各カリキュラムの「理解度」を教えてください。

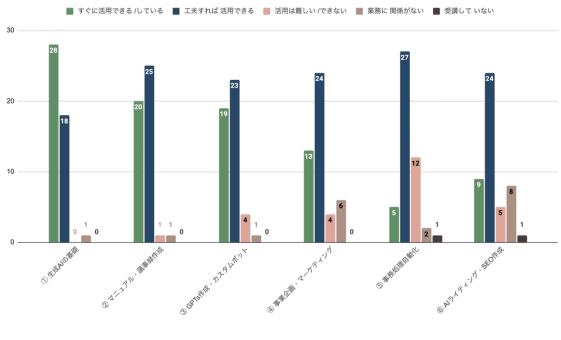


カリキュラム	よく理解できた	概ね理解できた	半分程度理解できた	あまり理解できなかった	受講していない
① 生成AIの基礎 (ChatGPT等)	26	16	5	0	0
② マニュアル・議事録作成 (NotebookLM等)	25	13	9	0	0
③ GPTs作成・カスタムボット	24	13	8	2	0
④ 事業企画・マーケティング	15	22	7	3	0
⑤ 事務処理自動化 (スプレッドシート連携)	9	20	14	3	1
⑥ AIライティング・SEO記事作成	14	20	8	4	1

23

■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース）

Q. 各カリキュラムの「業務への活用可能性」を教えてください。

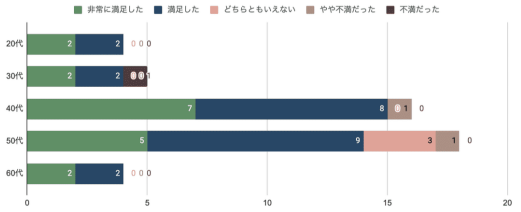


カリキュラム	すぐに活用できるしている	工夫すれば活用できる	活用は難しいできない	業務に関係がない	受講していない
① 生成AIの基礎	28	18	0	1	0
② マニュアル・議事録作成	20	25	1	1	0
③ GPTs作成・カスタムボット	19	23	4	1	0
④ 事業企画・マーケティング	13	24	4	6	0
⑤ 事務処理自動化	5	27	12	2	1
⑥ AIライティング・SEO作成	9	24	5	8	1

24

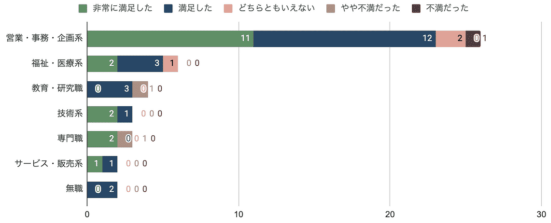
■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース/クロス集計）

◆ 年代×満足度



	非常に満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満だった	不満だった
20代	2	2	0	0	0
30代	2	2	0	0	1
40代	7	8	0	1	0
50代	5	9	3	1	0
60代	2	2	0	0	0
合計	18	23	3	2	1

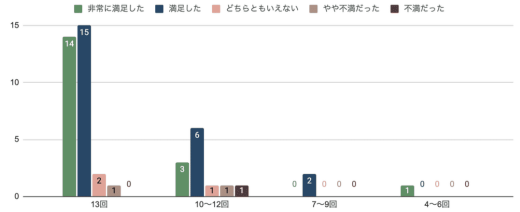
◆ 職種×満足度



	非常に満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満だった	不満だった
営業・事務・企画系	11	12	2	0	1
福祉・医療系	2	3	1	0	0
教育・研究職	0	3	0	1	0
技術系	2	1	0	0	0
専門職	2	0	0	1	0
サービス・販売系	1	1	0	0	0
無職	0	2	0	0	0
学生	0	1	0	0	0
合計	18	23	3	2	1

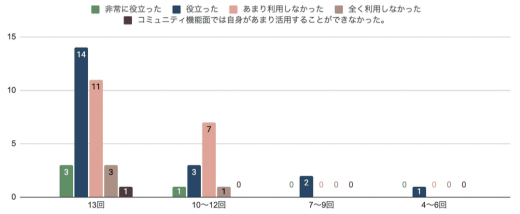
■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース/クロス集計）

◆ 参加回数×満足度



	非常に満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満だった	不満だった
13回	14	15	2	1	0
10～12回	3	6	1	1	1
7～9回	0	2	0	0	0
4～6回	1	0	0	0	0
合計	18	23	3	2	1

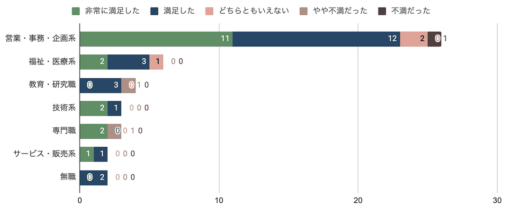
◆ 参加回数×Discordの活用



	非常に役立った	役立った	あまり利用しなかった	全く利用しなかった	その他
13回	3	14	11	3	1
10～12回	1	3	7	1	0
7～9回	0	2	0	0	0
4～6回	0	1	0	0	0
合計	4	20	18	4	1

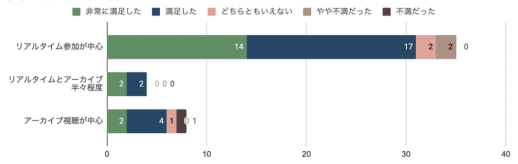
■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース/クロス集計）

◆ 職種×満足度



	非常に満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満だった	不満だった
会社員・会社役員	14	14	3	0	1
公務員・団体職員	2	2	0	0	0
パート・アルバイト	1	2	0	1	0
自営業	0	0	0	1	0
派遣・契約社員	0	1	0	0	0
専業主婦・主夫	0	1	0	0	0
学生	0	1	0	0	0
無職	0	1	0	0	0
その他	1	1	0	0	0
合計	18	23	3	2	1

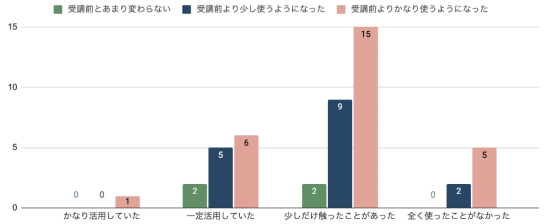
◆ 参加形態×満足度



	非常に満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満だった	不満だった
リアルタイム参加が中心	14	17	2	2	0
リアルタイムとアーカイブ半々程度	2	2	0	0	0
アーカイブ視聴が中心	2	4	1	0	1
合計	18	23	3	2	1

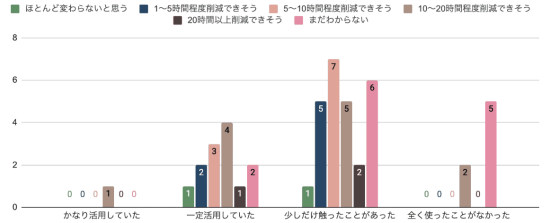
■ 最終アンケート（AIキャリアアップコース/クロス集計）

◆ 受講前のAI活用状況×受講後のAI活用



	受講前とあまり変わらない	受講前より少し使うようになった	受講前よりかなり使うようになった
かなり活用していた	0	0	1
一定活用していた	2	5	6
少しだけ触ったことがあった	2	9	15
全く使ったことがなかった	0	2	5
合計	4	16	27

◆ 受講前のAI活用状況×受講後AIを活用した作業の削減見み時間



	ほとんど変わらないと思う	1～5時間程度削減できそう	5～10時間程度削減できそう	10～20時間程度削減できそう	20時間以上削減できそう	まだわからない
かなり活用していた	0	0	0	1	0	0
一定活用していた	1	2	3	4	1	2
少しだけ触ったことがあった	1	5	7	5	2	6
全く使ったことがなかった	0	0	0	2	0	5
合計	2	7	10	12	3	13

◎IT 利活用コース「社会人向けスキルアップ講座」最終アンケート 分析

【1. 年代】

受講者の中心は 30 代～40 代（計 60%）であり、中堅層が実務への直接的なフィードバックを求めて参加している傾向が強い。また、20 代（20%）から 60 代（10%）まで幅広く分布しており、世代を問わず「観光×IT」への関心が高いことが伺える。 特に若手層（20 代）からは、自身の業務の軸を固めるための知識習得や、学生としての視点から高い満足度が得られている。

【2. 所属組織のカテゴリ】

「DMO・観光協会」が全体の 50%を占め、地域観光の舵取りを担う組織からの参加が目立つ。一方で、日本郵便やコンサルティング、陶器メーカーなど「観光関連以外の事業者」や「観光関連事業者」も半数にのぼり、業種を超えたネットワーキングが形成されている。 異業種交流が「アイデアのヒントを生む」との声もあり、多様なバックグラウンドを持つ受講生が混ざり合う構成は、本講座の大きな強みとなっている。

【3. 地域（都道府県）】

熊本県内からの参加者が圧倒的に多く（60%）、次いで大分県（20%）、佐賀県、長崎県、福岡県と続く。九州各県から満遍なく参加者が集まっており、地域密着型でありながら、オンラインを活用することで広域な「九州観光コミュニティ」としての機能を果たしている。

【4. 探究課題のアクション状況】

「明日からアクションできる状態になった」と回答した受講生は 20%に留まるが、「アクションが明確になった」「課題探究が進んだ」を含めると 100%となり、全員が前進を実感している。 特にゼミでの個別アドバイスが「明日からのアクションを意識できる状態」への後押しとなっており、少人数制ゼミの効果が非常に高い。

【5. 講座・ゼミの満足度】

満足度は極めて高く、10 名中 9 名が最高評価の「5」を付けている。

評価ポイント: インプット（ゲスト講義）とアウトプット（ゼミ・発表）のバランスの良さ 、アーカイブ配信による復習のしやすさ 、講師陣との距離の近さ。

課題: オンラインでのゼミ時間に「もう少し対話の時間が欲しかった」という意見もあり、アウトプットの時間をさらに確保する工夫が求められる。

【6. 講義の構成・テーマ】

事例をもとに詳細に解説した回など、具体的かつ実践的なビジネス構築手法が好評であった。

【今後取り上げて欲しいテーマ】

最新技術: AI による業務運用 、生成 AI の活用。

観光戦略: インバウンド視点での日本の魅力、海外から見た観光 、地域の巻き込み・賛同獲得のプロセス。

【7. 授業形式と時間帯】

形式: 「オンラインと対面のバランスが良い」との声が多いが、一部で「対面をもっと増やしてほしい」という熱心な要望も見られる。

時間帯: 18:30～20:30 の間が最も好まれ、仕事終わりに参加できる設定が適切である。

講義時間: 1 時間 30 分を「適切」とする意見が大半を占める。

【8. 価格】
「2 万 5 千円～3 万円未満」を適正とする意見が多く、現状の価格帯は概ね受け入れられている。 コンサルタントや事業者からは「お値段以上」「内容を考えると安すぎる」との評価もあり、提供されている価値（豪華講師陣、フィールドワーク、ネットワーク）に対する費用対効果は極めて高い。
【9. 来年度の参加意向】
全員が「参加したい」または「ぜひ参加したい」と回答。「想像以上に内容が充実していた」「実務に活かせる」といった実利的な面だけでなく、「講師の熱意」や「受講生同士の刺激」といったマインド面での満足度も継続意向に繋がっている。
【10. 改善点・アイディア】
運営面: Zoom 案内が届かないトラブルへの対策、欠席やカメラ OFF 時の連絡窓口の一本化。
内容面: 質問用チャットの設置、ゼミでのディスカッション時間の拡大。
時期: 宿泊業者にとっては 8 月や繁忙期のフィールドワークは参加が厳しいため、実施時期の検討が必要。

◎ AI キャリアアップコース分析報告

【1. 年代】
受講者の中心は 40 代～50 代（計 61.7%）であり、次いで 20 代～30 代（計 31.9%）と続く 。社会人経験を積んだ中堅・ベテラン層が、生成 AI という新技術を既存業務に統合し、生産性を向上させることを主目的として受講している 。 40～50 代は管理職や経営者層も多く含まれるため（全回答者の約 25.5%が経営者・役員） 、個人のスキルアップのみならず、組織内での AI 導入やガバナンスに関心が高い。今後は、組織マネジメント層向けの「AI 導入戦略」や、若手向けの「実務特化型」など、年代や役割に応じた深度の調整が満足度向上の鍵となる。
【2. 所属組織・職種のカテゴリ】
職種別では「営業・事務・企画系」が圧倒的に多く、全体の約 6 割を占める 。一方で、福祉・医療系や教育・研究職、専門職（士業等）からの参加も一定数見られた 。 事務系職種からは「議事録作成や資料作成の効率化」で高い満足度が得られたが 、福祉・医療系などの受講生からは「自分の職場では活かしにくい現実がある」との声もあり 、汎用的なスキル提供だけでなく、職種別の具体的なユースケース提示の重要性が浮き彫りになった。
【3. 地域（都道府県）】
拠点である熊本県内からの受講者が約 25.5%と最も多いが、東京都（10.6%）、福岡県（10.6%）、大阪府、兵庫県、鹿児島県など、全国広範囲からの参加が見られた 。 オンライン形式を最大限に活かし、地方にいながら最先端の AI 知見を得られる機会として機能している。
【4. 受講方法】
「リアルタイム参加が中心」が約 8 割と高く、ライブ講義の双方向性が重視されている 。一方で、仕事の都合でアーカイブを併用する層も一定数存在し、復習用としてのアーカイ

ブ視聴はもはや必須のインフラとなっている 。 自由記述では「アーカイブを巻き戻して何度も確認することで理解を深めた」という意見が多く 、視聴期間の延長を求める要望も出ている 。

【5. 講座について（満足度・推奨度）】

講座全体への総合満足度は極めて高く、「満足」「非常に満足」が大多数を占める 。推奨理由として「基礎から応用まで網羅的」「実務に即効性がある」ことが挙げられた 。 特に NotebookLM や GPTs 作成などの実践的な回は「明日から使える」と評価が高い 。課題としては、受講生間のスキル差があり、「初心者には進むスピードが早すぎる」という指摘が散見される 。

【2】リカレント教育の広報と受講者募集

■R7 年度に開催する IT 利活用コースの受講者募集を目的とし、団体・企業向けに HP やパンフレット等のツールを作成し広報を行った。

① リカレント教材 4 科目分の動画作成

構成：紹介用ダイジェスト動画：4 本（各動画 5 分間以内）取材を含む

◎リカレント教育の情報発信（4 科目分）

各動画 3 分以内で離脱が少ない尺で取りまとめ。
全てにテロップと音声読み上げを挿入。
講師インタビューはもちろん、参加者の声も取材を実施し、広報効果のある動画を作成。
YouTube、また IICA サイト内でも閲覧可能。

①【地域観光×IT 活用実践プログラム】フィールドワーク

https://www.youtube.com/watch?v=xh7BbT0PfXU

②【地域観光×IT 活用実践プログラム】ゼミ紹介

https://www.youtube.com/watch?v=h3ZcoiLAZFA

③【【AI キャリアアップコース】講座概要

https://www.youtube.com/watch?v=u-QNpoxG-0s&t=3s

④AI キャリアアップコース】講師の想い・受講生の声

https://www.youtube.com/watch?v=jTaWqH96guw&t=11s







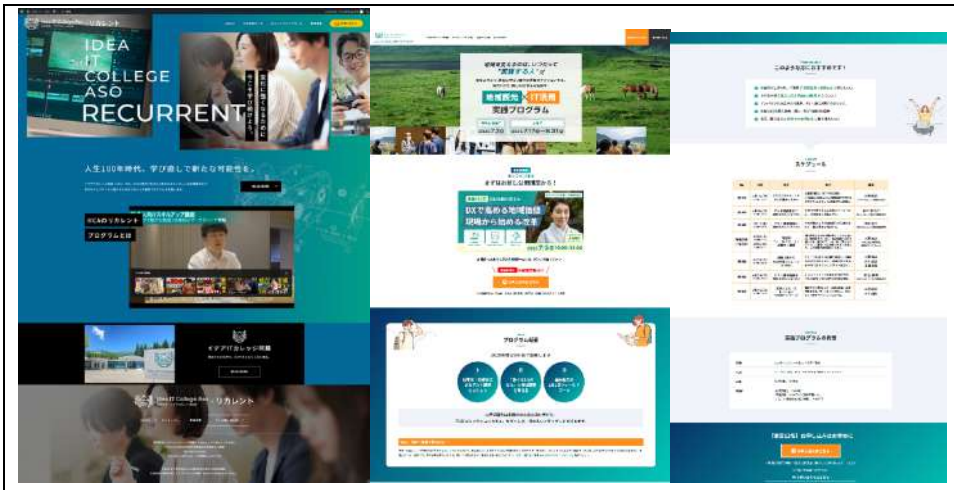


② リカレント教育の情報発信（HP 制作　修正）

◎リカレント教育全体・IT 利活用コース・AI キャリアアップコース

構成：　TOP ページ、事業概要、コース、シラバス、教材、授業の様子
以下 URL の通り、WEB サイトを制作・修正。

https://iica.jp/recurrent/















③ リカレント教育受講生募集の情報発信

◎募集告知 WEB 情報発信

WEB での受講生募集は、募集用サイトと SNS 広告で、年齢層や地域などターゲティングをして広告を配信。

IT 利活用コースは、6 月 17 日～7 月 10 日まで実施。対象エリアは九州。







AI キャリアアップコースは、8 月 20 日～9 月 23 日まで実施。
SNS、リスティング広告等のメディアミックス 3 本。静止画 5 枚、動画 6 本作成。
AB テストを実施しながら、広告を運用した。



◎Peatix での募集

AI キャリアアップコース Peatix 申込ページ
（https://iica-recurrentai2025.peatix.com/view）
IT 利活用コース Peatix 申込ページ
（https://iica-recurrent2025-full.peatix.com/view）





◎募集告知用リーフレット

リーフレットは以下の通り、作成。リカレント教育について、カリキュラム、受講条件などを掲載。A4　4ページのリーフレットとして 500 部作成。



◎動画制作（5 分間程度、1本）

事業全体の紹介動画は、以下のイデア IT カレッジ阿蘇の YouTube チャンネルでも確認することが可能。学校長インタビューも盛り込み、本事業の趣旨などにも改めて触れ、5分程度で全体理解ができる動画に編集。

取材は、学校長・講師陣に実施。

https://youtu.be/h8YiTsDYXkc





【5】リカレント教育モデルセミナー開催

【目的】

本業務は、専修学校リカレント教育推進事業において、IT 利活用コース、IT エンジニアコースのリカレント人材を養成することを目指す。本業務では、成果物を全国的に情報発信していく手段として、「リカレント教育モデルセミナー」を開催し、広報活動を行う。

【概要】

成果物を全国的に情報発信していく手段として、「リカレント教育モデルセミナー」を開催する。また、広報活動としてエキスポ等への出展を行う。

【セミナー内容】

広がれ！リカレント教育プログラム

・対象：リカレントに関心が高い企業及び関心の高い社会人

・時期：令和 7 年 8 月、令和 8 年 2 月、2 回・場所：熊本市内の会場

・形式：　セミナー：リアルとオンライン参加可能なハイブリッド方式　くまもと産業エキスポ等への出展

・定員：セミナー：50 人。出展：×1 回

・会場費、設営費、登壇者、司会の謝金

【セミナー参加者募集告知・WEB 上での告知、申込受付】

・配布資料作成、参加者アンケート集計

なお、セミナー内容は本講座内容に合わせ、随時イデア IT カレッジ阿蘇様と協議し調整を実施する。

◎セミナー開催①

タイトル：創業 100 年の老舗旅館が変えた DX で高める地域価値、現場から始める改革～老舗旅館が変えた働き方と地域観光の未来～

【開催概要】

日時：2025 年 7 月 3 日（木）19:00～21:00

開催形式：オンライン（Zoom 配信）

参加費：無料（先着 100 名）

申込数：20 名

講師：株式会社陣屋　代表取締役　女将　宮﨑知子氏

IT 利活用コースの募集前に実施し、本科生募集へ紐づく公開セミナーとして実施。

本講座はオンラインがメイン講座であったため、開催をオンラインにしそのままお申込みいただけるような動線設計を実施。



（公開セミナー参加者の中から、7 名が本講座参加となった。）

◎当日の資料・様子









◎セミナー参加者募集告知（WEB 広告、参加者申込ページ）

▼Meta 広告出稿画面：九州を中心に広告を出稿







▼Peatix 申込ページ



◎セミナー開催②

タイトル：超初心者向け　無料 AI セミナー

【開催概要】

日時：2025 年 11 月 1 日（土）14:00～14:25

開催形式：リアル（イデア IT カレッジ阿蘇　熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽 4518 番地）

参加費：無料

参加者：7 名

講師：イデア IT カレッジ阿蘇講師　廣瀬実華

イデア IT カレッジ阿蘇がある南阿蘇での現地開催セミナー。

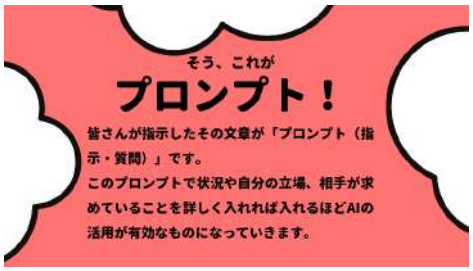
リアル参加で AI を全く使ったことが無い方を対象とした、超初心者向けセミナー。

今後、AI などの学びの機会へのハードルを下げ、リカレント興味醸成のために実施。

◎当日の資料・様子・資料







◎セミナー参加者募集告知

▼ポスターでの告知

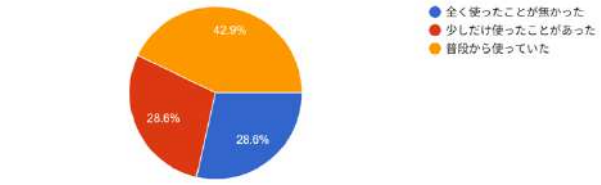


◎アンケート結果

セミナーを通して、学び意欲（リカレント）が向上。満足度・理解度も★5と高評価。

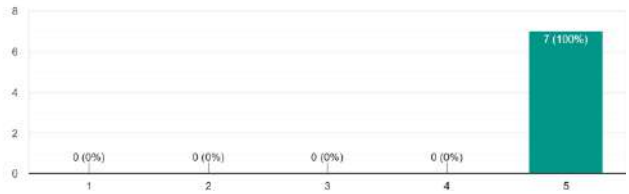
これまでにAIを使ったことはありましたか？

7 件の回答



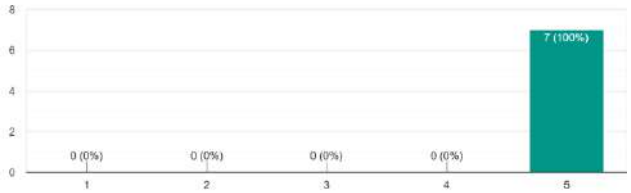
満足度

7 件の回答



これからAIを活用したいと思いましたか？

7 件の回答



その他感想やご意見がございましたらご自由に記載ください。

5 件の回答

短い時間でしたがわかりやすい説明でAIを身近に感じられました。
AIを使う前にパスワードや登録などの時点で上手くいかずいつも先に進めません
大変わかりやすかった
とっても役に立ちました！活用していきたいと思います！ありがとうございました！
chatgptより活用的に使おうと感じました

【4】リカレント教育部会の開催

〇事業を実施する上で設置する会議

会議名	**観光 IT リカレント教育部会**		
目的・役割	業界団体・企業、行政、教育機関からなるメンバーで委員を構成し、本事業の進捗に関するアドバイス、IT 利活用コース、 IT エンジニアコースのリカレント教育のカリキュラム、シラバス開発、講座実施に関する助言をいただく。		
検討の具体的内容	・IT 利活用コース、 IT エンジニアコースのカリキュラムの全体方針への助言。 ・IT 利活用コース、 IT エンジニアコースの教材の開発支援。 　具体的に科目名、コマ数、担当、学習目標、科目内容、学習単位、事前学習等。 ・今年度開催する講座実施の受講生への募集広報支援、受講者の理解度、進捗管理、カリキュラムの効果検証の指標などへのアドバイス。		
委員数	11人	委員数	年間 3 回

観光 IT リカレント教育部会の構成員（委員）

氏名		所属・職名	役割等	内諾	都道府県名	旅費
1	井手　修身	学校法人イデア熊本アジア学園		〇	熊本県	
2	永田　祐介	熊本県旅館生活衛生同業組合	IT 利活用	〇	熊本県	〇
3	久保　尭之	一般社団法人みなみあそ観光局	IT 利活用	〇	熊本県	〇
4	富山　孝治	熊本県情報サービス産業協会	エンジニアコース	〇	熊本県	〇
5	田中　旬一	学校法人せとうち日本 IT ﾋﾞｼﾞﾈｽｶﾚｯｼﾞ	専門学校	〇	岡山県	〇
6	赤山　聖子	学校法人赤山学園	専門学校	〇	熊本県	〇
7	岩木　健	南阿蘇 IT バレー協議会	エンジニアコース	〇	熊本県	〇
8	北山　元	黒川温泉観光旅館協同組合	観光 IT 利活用	〇	熊本県	〇
9	小野田　金司	大阪観光大学	観光 IT 利活用	〇	和歌山県	〇
10	今村　新	NX商事株式会社経営企画部 DX 推進室	エンジニアコース	〇	東京都	〇
11	受島章太郎	熊本県　デジタル戦略推進課	行政	〇	熊本県	

会議名	第1回　リカレント教育部会		
日時	令和7年7月9日(水)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：/◯富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/〇田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園) 欠席：永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合)/小野田 金司(大阪観光大学)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣/家守 里佳/藤井 幹子		
議題	①リカレント教育事業の概要 ②今年度のIT利活用コースについて ③今年度のITエンジニアコースについて ④今年度のリカレント事業に関する意見交換 ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	【①リカレント教育事業の概要】 ◎R7年度のリカレント教育モデル事業計画について 学長の井手氏より、 令和7年度におけるリカレント教育モデル事業の全体像と、今年度実施する2つの講座 (IT利活用コース、ITエンジニアコース)について説明。本日の議題は、リカレント事業に関する議論であり、特にIT利活用コースの現状報告、ITエンジニアコースについては、当初計画からブラッシュアップした案について意見交換を行う。 【②今年度のIT利活用コースについて】 ◎事業計画と実施状況について IT利活用コースは昨年度に引き続き実施されるもので、地域観光や地域課題に対しITやAIを活用しながら、受講者自身の課題意識に基づいた実践的な学びを重視している。7月17日からスタートし、オンライン講座と南阿蘇での現地研修(1泊2日)を含む8日間構成で、受講料は25,000円、定員は12名。講座には少人数ゼミを導入し、3名の講師がそれぞれテーマを持ち、個別フィードバックを交えた伴走型の指導を行う。 ゼミでは、地域全体の課題(久保氏)、インバウンドや人材育成(鈴木氏)、広報・プロモーション(廣瀬氏)という三つのテーマを設定。申込時に受講者の関心分野を確認し、それに応じてゼミへ振り分ける仕組みで実施予定。 久保氏より、本講座の核となる「ゼミ形式」の導入意図を説明。無料で受講可能な学習機会が世の中に増える中、専門学校ならではの価値を提供するために、マンツーマンに近い形でフィードバックを行う少人数制のゼミを用意した。また、受講申し込み時に関心分野をヒアリングし、講師3名(久保・鈴木・廣瀬)がそれぞれ4～5名を担当し、個別にプロジェクトをサポートする方針について説明。 鈴木氏は「20時間という短期間で完結するからこそ、受講後にもつながるような関係性を育てることが重要」と述べ、継続的な学びとコミュニティ形成の可能性に期待を示した。 廣瀬氏は、自身が担当するプロモーションゼミについて触れ、「AIツールを活用し、実務の中で抱える発信・広報業務の課題を効率化できるようなゼミにしたい」と述べた。 ◎IT利活用コースの公開講座について 7月3日に実施した公開講座について報告。観光事業者や地域感性に関心がある人を中心に16名が参加。現時点で正規受講申込は9名、今後もSNS広告やパンフレット配布を通じた広報を強化し、残枠の充足を図ることが共有された。 【③今年度のITエンジニアコースについて】 ◎事業計画と実施状況について 今年度新設されるITエンジニアコースについては、生成AIと業務効率化をテーマとし、初心者でも取り組みやすい内容で構成している。講座はすべてオンライン、全13回・19.5時間、受講料は49,800円で、定員は40名を予定。 講師を務める村上氏から、カリキュラム内容として「議事録作成」「社内マニュアル」「AIチャットボット」「事業企画書作成」「インスタ投稿生成」「自動経費精算」「AIライティング」など、実務で直結する活用法を習得できることなどが共有説明された。講座の目的は『明日から使えるAI活用』であり、特に中小企業やフリーランス、企業のバックオフィス担当者など、業務改革やキャリアアップを志向する層を主なターゲットとしている。		

会議名	第1回　リカレント教育部会		
日時	令和7年7月9日(水)　14時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：/◯富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/〇田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園) 欠席：永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合)/小野田 金司(大阪観光大学)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣/家守 里佳/藤井 幹子		
議題	①リカレント教育事業の概要 ②今年度のIT利活用コースについて ③今年度のITエンジニアコースについて ④今年度のリカレント事業に関する意見交換 ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	【④意見交換】 今村）昨年度の構想よりも、今回のカリキュラムはより現実的で、ターゲット層が明確になったと感じている。昨年は企業の情報システム担当者など、ある程度リテラシーがある層を前提にしていた印象だが、今回は中小企業や一般層にも対応できる内容になっており、地元の受け皿としては期待できる。ただし、定員40名という規模はチャレンジングであり、参加対象をより具体的に示したり、講師のプロフィールや成果物イメージなど“何が得られるか”の提示が必要だと思う。 岩木）実践的な内容に魅力を感じた。一方で、受講者が“この講座を受けることで何ができるようになるのか”というイメージを持てるかが重要で、講座の出口の見せ方が鍵になると考える。受講後に持ち帰って業務でどう活かせるのか、導線が明確でないと参加意欲につながらない。職種別の導入事例や具体的なユースケースが紹介されるとより良い。 富山）全体として、内容は非常に整理されており、ボリューム感もあってお得感はある。ただ、企業で受講者を選定する際には“誰を送り込むか”が重要になってくる。価格は一般的な研修に比べればリーズナブルだが、1社で複数名の参加は難しく、送る側としての判断材料が必要。例えば、総務部門向け、マーケティング担当向け、バックオフィス職向けといったイメージを持てる構成が求められる。 赤山）講座全体を1人の受講者が網羅する必要はないと思う。むしろ、科目ごとにニーズのある層が異なることを前提に設計することで、より多様な人材に届くのではないか。特にAIリテラシーやスキルには個人差が大きいため、パーソナライズされた構成にしていくことも今後の可能性としてある。 菅）今回の講座はあくまで“基礎編”という位置づけで、受講対象者のレベルにばらつきがあっても対応できるようにしている。今後は、職種別やレベル別の“応用編”を別枠で展開できるよう検討している。今回の講座は“生成AIの入り口”として、多くの方にまず触れてもらうことを目的としている。 井手）講座の一部だけ受けたいという声（例：マーケティング回のみ）も想定されるが、その点はどう考えるか？ 村上）AIツールの活用は、断片的に理解しても成果に結びつきにくいため、“一貫して学ぶ設計”にこだわっている。たとえばマーケティングを学ぶにしても、議事録作成や自動化、ライティングなど他の要素と連動してこそ実務に使える力になる。部分受講は世界観や設計意図に合致しないと考えている。 赤山）企業派遣というよりは、個人でスキルアップやキャリアアップを志向している層が自然に集まりそうな構成だと感じる。 田中）リカレント教育の価値は“新しい仕事像”の発見にあると感じる。受講を通じて、自分に合った働き方やキャリアのヒントが得られるような構成が理想的だ。若年層だけでなく、30代以降のリスキリング世代にとっても魅力ある内容になっていると思う。 今村）IICAの学生との接続も検討してほしい。社会人と合同で学ぶことによって、学生にとっても実践的な刺激となるし、事業全体としての相乗効果も期待できる。 菅）学生にも有料で参加してもらう想定。通常授業で物足りなさを感じているような学生が、この講座を自発的に受けることで相乗効果が生まれると考えている。無料だと継続性が担保されにくいため、あえて“価値のある学び”としての位置づけで設計している。 【⑤今後のスケジュールと展開】 最後に井手より、今後の協力依頼とスケジュールについて共有。 各講座の広報・集客について委員の方々の継続的な支援をお願いしたい 第2回部会は12月初旬に開催予定。		

会議名	第2回　リカレント教育部会		
日時	令和7年12月18日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：/〇永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園)/〇小野田 金司(大阪観光大学)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：/村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣		
議題	①リカレント教育事業部会の概要 ②今年度の事業報告(地域観光×IT活用実践プログラム/初心者歓迎AIキャリアアップコース) ③意見交換(リカレント教育の方向性、ニーズ、課題について) ④講座のボリュームと形式の検討 ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	【①リカレント教育事業部会の概要】 ◎R7年度のリカレント教育モデル事業第2回部会について 今回の部会は、リカレント部会と地域産業人材部会の合同部会として開催された。リカレント事業がほぼ終了段階にあるため、まずリカレント事業の報告を行った。 【②今年度の事業報告】 リカレント教育部会では、「地域観光×IT活用実践プログラム」と「AIキャリアアップコース」の事業を実施した。今年度は両コースとも有料の受講生を募集した。 ◎地域観光×IT利活用 実践プログラム 目的・対象: 地域活性や観光に関心のある方を対象に実施し、IT・AI活用を通じて課題解決を目指すものとした。 形式: ハイブリッド型で実施され、オンライン講義に加え、現地研修(1泊2日)を組み込んだ。 特徴: 昨年度までの座学形式から、少人数のゼミ伴走型(講師3名)に形式を変更した。これにより、受講者が持ち寄った課題の解決をテーマとし、「明日からアクションができる状態」を最終ゴールとした。 実績:正規受講生12名、部分受講1名。 終了証発行規定を満たした方は9名であった。お盆期間を挟んだため、宿泊事業者の受講生が多忙により出席率が足りなかったという課題があったため、次回以降は時期の調整が必要とされた。 評価: ゼミの満足度は4.9と高く、来年も参加したいという回答が100%であった。個別のアドバイスやディスカッションの場があったことの満足度が高かった。 課題: AIに関するインプット要素を増やすこと、時期(8月)の見直しが課題として挙げられた。 ◎初心者歓迎！AIキャリアアップコース 目的・対象: AIの活用方法に不安を感じつつもスキルを身につけたい初心者層をターゲットとして、様々なAIツールを使い、課題解決や業務効率向上に役立つようなスキルを身につけるための講座を実施した。 形式: 全13回のフルオンライン講座で、受講料は49,800円。 実績: 目標40名に対し、85名が申し込み、8月から9月の短期間で集客に成功した。 受講者属性: 40代、50代が中心。仕事を持つ会社員や公務員が中心(営業、事務、企画系、サービス、技術系など)。 特徴: 文科省のロゴを使用し、学校がバックアップしていることで安心感を提供。受講者向けのコミュニティツールを準備し、講座資料の一元管理や質疑応答に対応した。 評価・課題:満足度、理解度、活用度の平均は4.0/5点と高評価であった。 初回は「早すぎる」「難しい」といった意見が多かったため、受講生の進捗も確認しながら、回を重ねるごとに内容を調整して進行した。講座内容が、複数のAI(6～7種類)を組み合わせる応用的な内容を含んでおり、初心者にとっては高度すぎるという意見もあった。 受講後アンケートの回答率が回を追うごとに低下する傾向が見られたため、今後の工夫が課題とされた。		

会議名	第2回　リカレント教育部会		
日時	令和7年12月18日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席：/〇永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園)/〇小野田 金司(大阪観光大学)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：/村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会)/北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣		
議題	①リカレント教育事業部会の概要 ②今年度の事業報告(地域観光×IT活用実践プログラム/初心者歓迎AIキャリアアップコース) ③意見交換(リカレント教育の方向性、ニーズ、課題について) ④講座のボリュームと形式の検討 ⑤今後のスケジュールと展開		
議事内容	【③意見交換(リカレント教育の方向性、ニーズ、課題について)】 永田) AIの参加者の多さから関心の高さがうかがえる。AIで何ができるのかわかるのは大切。 今村) フルオンラインでこれだけの内容を収めたカリキュラムは素晴らしい。コミュニティSNSの準備も評価できる。フリーランスややる気のある個人事業主にとっては「全くぴったり」な内容だが、「初心者歓迎」というメッセージの裏に、それなりの覚悟を促すメッセージを最初に出す必要があったかもしれない。公務員や教員など、特定の職種の方は、職場の制約やガイドラインにより、講座内容が直接触れるものと合致せず、苦労した可能性がある。 小野田) 観光講座の課題について、自身の大学での60時間リカレントプログラム(厚労省給付金対象、有料)は応募人数が1名で中止となった。観光系の講座は、DMOや観光庁による無料講座が多すぎるため、有料で受講生を集めることの難しさを痛感している。観光講座はオンラインよりオフライン(合宿型)の方が良いのではないかと考えている。 岩木) AIキャリアアップコースに関して、回数やボリュームはどうだったのか。実施してみて、13回は多く感じるため半分のボリュームでもよかったのではと思う。90分で終わらず、その後自分で活用してみるフェーズもあるので、課題を出してやるという形も良いのでは。 鈴木) アクウィーでも社員が1名参加。業務までは落とし込まれていない。実際に業務のために使ってみる時間確保も必要。 久保) アーカイブ動画の扱いについて、AIの進化が早く難しさがあると感じる。 赤山) AI講座の継続性について、AIの急速な進化に対し、講座内容をどのように継続的に整備していくか。また、学校の学生へのAI教育はどう考えているかを質問した。 菅) AI進化への対応は、全体をカバーできないため、3人の講師のようにマーケティングなどそれぞれの専門特化を図った方々とのネットワークを常に持つ必要がある。学生教育については、現在、社会人講座のコミュニティで得られた社会人の課題などを授業にフィードバックし、授業の質を向上させるステップを来年度から実践していく。 【④講座のボリュームと形式の検討】 全13回は多いという意見があり、90分の講座内容についても、課題を与えて持ち寄らせるなど、双方向性を取り入れた形式の方がAIの場合は馴染みやすいのではないかという意見が出た。また、アーカイブ動画での復習は、社会人にとってかなりきついという意見も散見された。 【⑤今後のスケジュールと展開】 最後に井手より、今後の協力依頼とスケジュールについて共有。 次回の部会は、2026年2月19日(木)13時からとし、最終講座終了後の次年度の展開も含めた報告を行う予定である。		

会議名	第3回　リカレント教育部会		
日時	令和8年2月19日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席/〇北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園) /〇小野田 金司(大阪観光大学)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/〇富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合) 事務局：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口 由衣		
議題	①リカレント教育モデル構築事業 （R7年度 初心者歓迎！AIキャリアアップコース 報告/次年度以降の展開） ②意見交換リカレント教育の方向性、ニーズ、課題について		
議事内容	①令和7年度リカレント事業の成果報告 本年度は「地域観光×IT活用コース」と「AIキャリアアップコース」の2コースを有料で実施した。 ◎ 地域観光×IT活用コース 【参加状況・修了状況】 定員12名に対し、正規受講生12名（単発受講1名）が参加し、修了証発行は9名であった。修了できなかった方は主に宿泊事業者であり、開催時期（7～8月）が繁忙期と重なり出席率が足りなかったため、次年度以降は開催時期の調整が必要である。 【カリキュラムの特徴】 今年度は専門家による特別講義に加え、1ゼミ4名程度の少人数制ゼミ（久保・鈴木・廣瀬が担当）を導入し、受講生1人ひとりに伴走するサポート体制を構築した。また、南阿蘇での1泊2日のフィールドワークも実施した。 【受講生アンケート結果】 来年も参加したいとの回答が100%に達し、ゼミの満足度も非常に高かった。受講後の状態として、2割が「明日からアクションできる状態」、7割が「もう少し探求が必要だがアクションが明確になった」と回答し、実務に活かせる内容であったと評価されている。 【課題】 受講希望価格帯は今回同様の2.5～3万円帯が多いが、ゼミ形式での手厚いサポートを維持するための運営コストとの兼ね合いが今後の検討課題である。 【動画共有】 会議内で南阿蘇でのフィールドワークの様子をまとめた動画が共有された。動画では、オンライン講座と現地での実体験を組み合わせることで「インターネット上では得られない深い学びがあった」「阿蘇のブランド力を肌で感じ、自地域でも盛り上げていきたい」といった受講生のリアルな声が紹介された。 ◎ AIキャリアアップコース 【ターゲット設定の変更】 AIの活用がエンジニア以外にも急速に広がっている現状を受け、ターゲットを再設定。個人事業主、フリーランス、一般企業勤務など幅広い層を対象とし、受講生85名（内有料参加29名）と定員を大きく上回る参加があった。参加者の約6割が女性であり、全国（東京や大阪など）からも受講生が集まった。 【運営の工夫】 非公開コミュニティ（Discord）を活用し、受講生をチーム（りんご、バナナ等）に分けて質問部屋を設け、IICAの学生をTAとして配置することで細やかなフォローアップを実施した。 【受講生アンケート結果】 各回の満足度は平均4点以上と高評価であった。進行に関して「先生の画面を見ながら自分の画面で操作するのが難しい」という声があり、説明と作業の時間を分けるなどの改善を図りながら進めた。 【修了課題の成果】 課題を提出した43名に修了証を発行した。課題の約84%が実務効率アップ（自動化、生活UX改善、専門分野の分析など）に直結する内容であり、自作AI（GPTs）の活用や複数ツールを組み合わせた高度なアウトプットも多く見られた。 【課題】 受講生間のIT/AIリテラシーのレベル差（Googleアカウント作成レベルから既存のAIユーザーまで）が大きく、足並みを揃えるのが非常に困難であった。		

会議名	第3回　リカレント教育部会		
日時	令和8年2月19日(木)　13時00分～	場所	南阿蘇村 ICT 交流センター
出席者	リアル出席：井手 修身(イデアITカレッジ阿蘇)/◎久保 尭之(一般社団法人みなみあそ観光局)/◎村上 大輔(株式会社ぱるぷんて)/(◎謝金、交通費対象者、〇謝金対象者) オンライン出席/〇北山 元(黒川温泉観光旅館協同組合)/〇岩木 健(南阿蘇ITバレー協議会)/〇赤山 聖子(学校法人赤山学園) /〇小野田 金司(大阪観光大学)/〇今村 新(NX商事株式会社経営企画部DX推進室)/〇富山 孝治(熊本県情報サービス産業協会/廣岡 俊治(熊本県 デジタル戦略推進課) 欠席：/田中 旬一(学校法人せとうち日本ITビジネスカレッジ)/永田 祐介(熊本県旅館生活衛生合同組合) 事務局 ：鈴木 俊良/菅 彰彦/廣瀬 実華/原口由衣		
議題	①リカレント教育モデル構築事業 （R7年度 初心者歓迎！AIキャリアアップコース 報告/次年度以降の展開） ②意見交換リカレント教育の方向性、ニーズ、課題について		
議事内容	【動画共有】 会議内で本コースの受講生と講師の声をまとめた動画が共有された。 村上)「単純なAIの使い方ではなく、普段の業務をどう効率化するかを意識し、1人で3人分の仕事ができるようになってほしい」との思いが語られた。受講生からは「専門用語も分かりやすく、メールや資料作成をAIに任せて業務効率化を進めたい」といった前向きな感想が寄せられた。 【令和8年度以降の展開について】 ・個人負担および企業負担による「自走プログラム」への移行を目指す。 ・アドバンスド・エッセンシャルワーカーなどの特定業種・職種にフォーカスしたリスキリングプログラムの検証を行う。 ・AIコースについては、「入門コース」と「発展コース（個人向け・法人向け）」に分割し、受講者のレベルやニーズに合わせた展開を予定している。 【②意見交換】 今村）法人向けの発展コースについて、教育機関が企業内に入り込みすぎるとソリューション提供（コンサルティング）になってしまう。企業でAIを活用するためのベース研修として提供し、具体的な課題解決は地域の専門家と連携する流れがよい。これが収益化・自走化に繋がるのではないか。 岩木） 当初の予定からかなり変更して、初心者向けに募集開催したが、アンケート結果等を見ると、人によっては難易度がかなり高かったことがわかる。もう少しレベル別の内容やコースを準備したり、事前リサーチをして、広報の際に最適な層にマッチできるような工夫が必要になる。 富山）自社の社員も受講したが、課題提出があったことでモチベーション維持に繋がった。レベル差への対応としてのクラス分けには賛成である。また、最先端のAI動向に関するスポット講演などがあると、さらなる意欲向上に繋がるのではないか。 久保）地域観光コースについて、アーカイブ学習だけでなく、ゼミ形式や現地でのフィールドワークに大きな教育的価値がある。次年度はさらにAI活用の要素を強めたり、合宿形式でシステムを作り上げるような内容も検討できるのではないか。 廣岡）フル（またはアーカイブ）で受講した。最初の数回はAIの基礎的な内容で、目から鱗が落ちるような非常に参考になるものであった。講座の途中からマーケティングなど、人によっては直接馴染みのないテーマも含まれるようになったため、全13回の内容を全て「自分事」として捉えられる受講生は少なかったのではないか。そのため、テーマごとにコースを分けるなどの工夫があっても良かったと感じた。 鈴木)受講後の個別相談やサポートなど、次のステップ（セカンドアクション）へ繋げる設計がもっとあると良かった。 小野田)観光業界でもAI活用が当たり前になりつつある一方で、あえてアナログを売りにする（アンチAI）動きもあり、二極化している。双方の動向をウォッチしていくことが重要である。 村上)会社組織としてAIを定着させるには、個人スキルだけでなく全社で使えるツールの導入が必要。受講者の具体的な悩みをより深く共有できれば、さらに踏み込んだ課題解決やツール提供に貢献できる。 北山)旅館単体ではAIの組織的な活用が難しく、個人スキルに依存しがちである。業界全体での「AI活用の型（フレームワーク）」が示されれば、企業側も社員を学びに行かせやすくなる。 赤山）社会人（リカレント受講生）と学生が合同でプロジェクトを行うなど、相互に高め合う連携ができないか。今後も連携を含めて検討していきたい。		

第１回 部会資料

令和7年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業」
観光業界のIT活用リカレント教育モデル構築事業

【第１回部会】

令和7年7月9日

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇

【2】実証講座の実施 (1)「地域観光×IT活用」実践プログラム 3

(1)「地域観光×IT活用」実践プログラムの概要

【地域観光×IT活用 実践プログラム 2025 概要】
地域活性化や観光に関心のある方を対象に、IT・AIを活用した地域課題解決の実践力を養うことを目的とした実践型の教育プログラム。阿蘇での現地研修を含むオンライン形式で実施され、専門家による講義と少人数制ゼミを通して、明日からすぐに使えるスキルを習得することを目的とする。

【プログラム基本情報】
プログラム名: /『地域観光×IT活用』 ～実践プログラム 2025～
期間: 2025年7月17日(木) ～ 8月31日(日) (全8日間) 19.5時間
形式: オンライン講座6回 (Zoom) + 現地研修 (1泊2日)
定員: 12名限定 (第2・3・5回のゲスト講師回は単発受講可能)

【対象者】
・地域活性化や観光に関心があり、他者との交流やネットワークを広げたい方
・観光でのIT活用やDXに関心のある方
・AIツールを活用した企画立案の実践スキルを身につけたい方
・観光や地域づくりに興味があり、地域で新しいことに挑戦したい方

【料金】
正規受講生: 25,000円 (※現地研修の交通費、宿泊費、食費は実費)
単発受講: ゲスト講師の講義 (第2回、第3回、第5回) は各回3,000円

【プログラム構成の3本軸】
①起業家・実践者による特別講義(70分×3回　計3.5時間):
観光・地域ビジネス・インバウンド戦略など、各分野の先駆者が登壇し、すぐに動き出したくなる実践的な話を提供
②少人数制ゼミで伴走サポート(90分×1回＋α　約7時間):
選べる3つの専門ゼミで自分のテーマを深掘りし、講師が"伴走者"となり、仲間と対話しながら地域アクションを具体化。
③阿蘇での1泊2日現地研修 /フィールドワーク(1日目4時間＋2日目5時間　計9時間):
南阿蘇の自然・文化・暮らしを「見て・感じて・語る」2日間。学びの「実感」を高め、地域と関わる感覚を掴む

【2】実証講座の実施 (1)「地域観光×IT活用」実践プログラム 4

(1)「地域観光×IT活用」実践プログラム　構成　(全8日間/19.5時間)

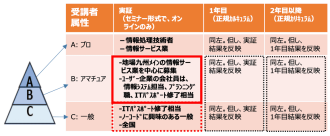
No	日程	概要	内容	講師
第1回	7月17日(木) 19:00～20:30	オリエンテーション+ ゼミ結動キックオフ	本事業の概要とプログラムの説明。 ゼミ講師との顔合わせと関心領域を共有する 全プログラムをさらに有意義にする仕掛け。	井手 修身 (イデアITカレッジ阿蘇/学長)
第2回	7月24日(木) 19:00～20:30	ゲスト講師講座① (講義&質疑7分+ゼミ20分)	地域の移動を変える起業ストーリーから。事業構造と実装を学ぶ。	原本 賢太郎 (チャリチャリ(株)代表取締役)
第3回	8月1日(金) 19:00～20:30	ゲスト講師講座② (講義&質疑7分+ゼミ20分)	滞在型観光と高付加価値化の仕組みを知り、観光戦略を構想する。	嶋田 俊平 (株)さとやま代表取締役CEO
現地研修 (1泊2日)	8月2日(土) (13:00-17:00) 8月3日(日) (9:00-14:00)	南阿蘇 フィールドワーク+ 対面ゼミ探究	南阿蘇をひとつの地域事例としてみる2日間。現場を見て、考え、地域観光との向き合い方や、自分のテーマについて設定するフィールド実習、または対面でのゼミを通して、より深度のある検討・計画へ。	久保 亮之 (みなみあそ観光局 観光統括マネジャー)
第4回	8月7日(木) 19:00～20:30	戦略深掘り& 実装検討セッション (ゼミ90分)	ゼミごとに個々の企画を深掘り。講師の視点を受けながら、地域に刺さる提案や各自のアクションプランを磨く。	久保 亮之 鈴木 俊貴 濱渦 美華
第5回	8月21日(木) 19:00～20:30	ゲスト講師講座③ (講義&質疑7分+ゼミ20分)	インバウンド×ITの最新潮流を学び、今後の展望と自地域での応用を検討。	村山 慶輔 (株)やまとごころ代表取締役)
第6回	8月31日(日) 13:00～16:20	最終レビュー& セッション 成果発表&フィードバック	講師やゼミ仲間を前に成果を発表。全体で振り返りとフィードバックを行い、明日からできるアクションへつなげる。	井手 修身 ゼミ 講師

【2】実証講座の実施 (2)仮称：【生成AI×業務効率化】キャリアアップ講座 7

昨年度検討内容からの変化点

受講者の戦略的なターゲット設定

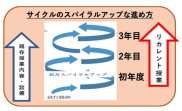
○ターゲット戦略
・3 階層（一般、アマチュア、プロ）を広くとらえ、ニーズに沿った専門人材を複数年に亘りカバー
・アマチュア(B) と一般 (C) をターゲットに実証→1年目開催で、2年目から受講者の声を反映



受講者属性	実証（セミナー形式で、オンラインのみ）	1年目（正規3h+1h）	2年目以降（正規3h+1h）
A: プロ	－情報処理技術者 －情報サービス業	同左、但し、実証結果を反映	同左、但し、1年目結果を反映
B: アマチュア	-地場九州メインの情報サービス業を中心に募集 -いず一企業の会社または、情報ﾘｽﾃﾗ担当、アカンデ職、ITﾊﾟｽﾄ・ｽﾀｯﾌ相当	同左、但し、実証結果を反映	同左、但し、1年目結果を反映
C: 一般	-ITﾊﾟｽﾄ・ｽﾀｯﾌ相当 -ノードに興味のある一般 -全国	同左、但し、実証結果を反映	同左、但し、1年目結果を反映

スパイラルアップなIICA授業内容拡充の仕組み

○リカレント授業を通じたデータ・テンプレート等のスパイラルアップな拡充によって、事業性を 確保し、複数年に亘って継続可能な仕組みを運用する



○受講者への提供価値（実証シナリオの仮説案、実証授業の実施による検証）
・講座のポジショニング：競合のUdemy, Shoo, JMOOCなど無料オンライン研修では得られない価値（実習やチームワーク）を専門学校価格で提供。比較的初心者もチャレンジ可能な授業。
・特 色：ノーコードツール（Dify）による実習で、用途別コースのお土産コンテンツ付き。
・継続性：複数年で、複数用途の授業を継続履修できることで、学び続けるリカレント授業。

◆継続性やIICA授業との連携についての考え方は変化なし

◆変化点（講座実績からの情報を加味して再検討）
1．ターゲットをよりC層に広げ、内容をChatbot開発から生成AI×業務効率化へ
2．全ての授業をオンラインで提供

【2】実証講座の実施 (2)仮称：【生成AI×業務効率化】キャリアアップ講座 8

(2)【生成AI×業務効率化】キャリアアップ講座（名称検討中）の概要

基本情報	内容・目標等
企画概要	・生成AIの基礎知識、業務効率化を目的とした活用プロセスと必要なスキルを学ぶ
対象者	・個人事業主、フリーランス、一般企業勤務（業務効率化担当、副業もしくは独立したいと考えている人） ・年齢・性別等は不問
科目数 科目群	・科目群：5、科目数：9
募集人員 募集期間 費用	【募集人員】目標数 40名（受講証明書） 【募集期間】令和7年8月～9月（実施は10～12月） 【受講料】49,800円
科目時間と 授業形式	19.5時間　全てオンライン（リアルタイム）実施

【2】実証講座の実施 (2)仮称：【生成AI×業務効率化】キャリアアップ講座 9

(2)仮称：【生成AI×業務効率化】キャリアアップ講座　内容

13日間、19.5時間
受講料：49,800円

科目群	科目名	講座内容	講師	時間
1) 生成AIの基礎	生成AI活用の目的と基礎	・講座の概要、GoogleClassroomの活用 ・受講方法、ここと受講　等 ・生成AI事前環境の構築	株式会社はるみて *甲斐の前半は人の資料は当社も	1.5
	ChatGPT, Claud, Gemini 一基礎から応用まで一	・ChatGPTの活用方法と基礎機能 ・画像生成プロンプトの基礎テクニック ・AIの効果的な活用方法	株式会社はるみて	1.5
2) 生成AIの活用	画像操作成の効率化 社内マニュアルの作成	・文字起こしツールの使い方 ・文字起こしデータを活用した議事録作成方法 ・議事録データを活用した ・社内マニュアルの作成および定期更新の作成 ・実践ハンズオン(上)(下) など	株式会社はるみて	1.5
	社内ヘルプの活用	GPTsの作成方法 ・複数GPTsChatbot ・作業作成Chatbot(メール文、プロデ) Notebook LMの活用方法	株式会社はるみて	1.5
	事業企画の作り方	・競合調査の方法 ・事業企画案の作成 ・Gamma、イラレ、Felo を使った スライド資料へのまとめ方	株式会社はるみて	1.5
3) 生成AI × マーケティング	AI活用マーケティングと クライアント獲得戦略	●前期Instagram、ブログ **前半：投稿作成の方法** 投稿企画書の作成方法(Instagramの基礎) 競合アカウントの調査方法 ・Claude, ChatGPTを活用した投稿文の作成方法 **後半：サムネ・画像の作成** ・CANVA, Canvaでの画像生成 ・バール動画生成	株式会社はるみて	3
4) 生成AI × 事務効率の自動化	自動化システムの作り方	ChatGPTとスプレッドシート連携 **前半** ・スプレッドシートとの連携の基礎 ・レシート自動読み取り ・スクショからテーブルへのChatGPTの連携 **後半** ・受付自動の作成方法 ・時間精算システム構築	株式会社はるみて	3
	Gmail自動返信システムの作成	・メール自動の自動化手法 ・最低文の自動生成と最適化 ・メールから問い合わせ対応 ・フロー・アップシステム構築	株式会社はるみて	3
5) 生成AI × 事務効率の自動化	AIライティング技術	**前半** ・AIで文章の効率的作成技術 ・プロンプト、テクニック ・ユーザー検索意図に応じた記事構成方法 ・記事の品質管理（校正と自動化） **後半** ・MIDJOURNEYやAIのプロンプト設計と最適化 ・ChatGPTとGoogle検索API を組み合わせたキーワード分析 ・AIによる記事の自動チェックの施工（ツール設計） ・効率的な校正・編集ワークフローの構築 ・AIを最大限に活用した作業時間の最適化テクニック	株式会社はるみて	3
				19.5

【1】IT利活用コース、ITエンジニアコース(名称検討中) の教材開発 11

(1)「地域観光×IT活用」実践プログラム　：広報リーフレット



(1)「地域観光×IT活用」実践プログラム　：SNS広告　▼ 公開講座SNS広告



【7】スケジュール 14

●スケジュール

：ITエンジニアコース(名称検討中)

	令和7年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和8年 1月	2月
【1】観光ITリカレント教育 部会の開催			7月9日 第1回					12月初旬 第2回		2月下旬 第3回
【2】リカレント教育の教材の修正		教材の修正								
【3】リカレント教育・広報と受講者募集		広報と受講者募集								
【4】リカレント教育・実証講座の実施			IT利活用コースの実施							
【5】リカレント教育 セミナー開催			7/3セミナー開催						セミナー開催	
【6】継続的連携強化の検討							継続的連携組織の検討			
事業の精算・報告書作成										清算・報告書

【第２回　部会資料】

令和7年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業」
観光業界のIT活用リカレント教育モデル構築事業

【第2回 リカレント部会】

令和7年12月18日

学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇

【1】　IT利用コース、AIキャリアアップコースの基本情報

Page: 3

■講座に関する基本情報

基本情報	内容・目標等
学習ターゲット、目指すべき人材像	①IT利用コース：地域活性化や観光におけるIT活用に関心があり、地域づくりや他者との交流を通じて、新たな挑戦をしたいと考えている方。 ②AIキャリアアップコース 個人事業主、フリーランス、一般企業勤務（業務効率化担当、副業もしくは 独立したいと考えている人）
対象者のレベル（当該プログラムに関する基礎知識の有無）	①IT利用コース：ITのスキルは問わない。パソコンやスマートフォンを日常的に使える。新しい技術やツールを学ぶことに抵抗がなく、柔軟な姿勢を持っている方。 ②AIキャリアアップコース 同上
目標受講者数	1.　IT利用コース　　：12人　　参加費：25,000円 2.　AIキャリアアップコース：40人（一般参加費：49,800円）
総授業時数	1.　IT利用コース　　19.5時間 2.　AIキャリアアップコース：19.5時間（1.5h/コマ×13コマ=19.5h）
受講期間	1.　IT利用コース　　2ヶ月間 2.　AIキャリアアップコース：3か月間（10～12月）
e-ラーニングの実施の有無	1.　IT利用コース　　：あり（オンライン講座、アーカイブ配信あり） 2.　AIキャリアアップコース：あり（オンライン講座、アーカイブ配信あり）

【2】実証講座の実施　①「地域観光×IT活用」実践プログラム

Page: 4

①「地域観光×IT活用」実践プログラムの概要

【地域観光×IT活用 実践プログラム 2025 概要】

地域活性化や観光に関心のある方を対象に、IT・AIを活用した地域課題解決の実践力を養うことを目的とした実践型の教育プログラム。阿蘇での現地研修を含むオンライン形式で実施され、専門家による講義と少人数制ゼミを通して、明日からすぐに使えるスキルを習得することを目的とする。

【プログラム基本情報】

プログラム名：/『地域観光×IT活用』 ～実践プログラム 2025～
期間：2025年7月17日(木) ～ 8月31日(日) (全8日間) 19.5時間
形式：オンライン講座6回 (Zoom) + 現地研修 (1泊2日)
定員：**12名限定（第2・3・5回のゲスト講師回は単発受講可能）　⇒13名受講**

【対象者】

・地域活性化や観光に関心があり、他者との交流やネットワークを広げたい方
・観光でのIT活用やDXに関心のある方
・AIツールを活用した企画立案の実践スキルを身につけたい方
・観光や地域づくりに興味があり、地域で新しいことに挑戦したい方

【料金】

正規受講生：25,000円（※現地研修の交通費、宿泊費、食費は実費）
単発受講：ゲスト講師の講義（第2回、第3回、第5回）は各回3,000円

【プログラム構成の3本軸】

①起業家・実践者による特別講義(70分×3回　計3.5時間)：
観光・地域ビジネス・インバウンド戦略など、各分野の先駆者が登壇し、すぐに動き出したくなる実践的な話を提供
②少人数制ゼミで伴走サポート(90分×1回＋α　約7時間)：

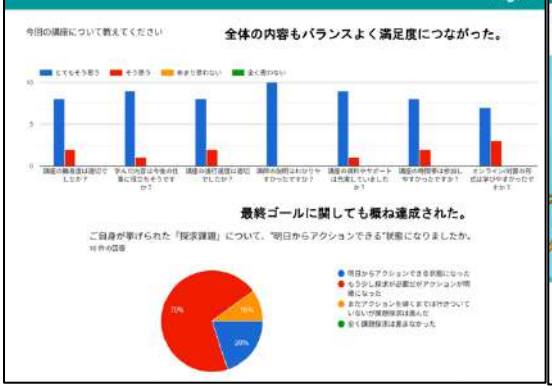
R7年度　①「地域観光×IT活用」実践プログラム　実施結果

Page: 7



R7年度　①「地域観光×IT活用」実践プログラム　実施結果

Page: 8



【2】実証講座の実施　②「初心者歓迎！AIキャリアアップコース」

Page: 9



【2】実証講座の実施　②「初心者歓迎！AIキャリアアップコース」　訴求内容

Page: 11



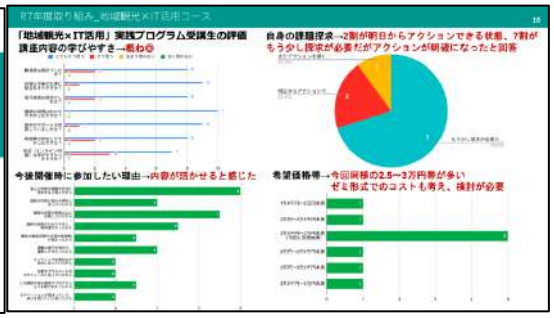
【2】実証講座の実施　②「初心者歓迎！AIキャリアアップコース」　参加者評価

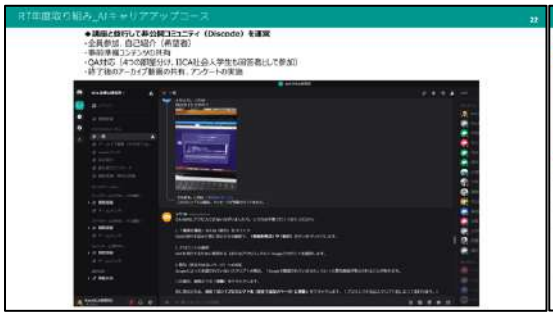
Page: 14



【第３回　部会資料】


令和7年度 文部科学省委託事業
「専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業」
観光業界のIT活用リカレント教育モデル構築事業
【第3回 リカレント部会】
令和8年2月19日
学校法人イデア熊本アジア学園
専門学校イデアITカレッジ阿蘇


R7年度取り組み_地域観光×IT活用コース
「地域観光×IT活用」実践プログラム受講生の評価
自身の課題探求→2割が明日からアクションできる状態、7割がもう少し探求が必要だがアクションが明確になったと回答
今後開催時に参加したい理由→内容が活かせると感じた
希望価格帯→今回同様の2.5~3万円帯が多い
ゼミ形式でのコストも考え、検討が必要

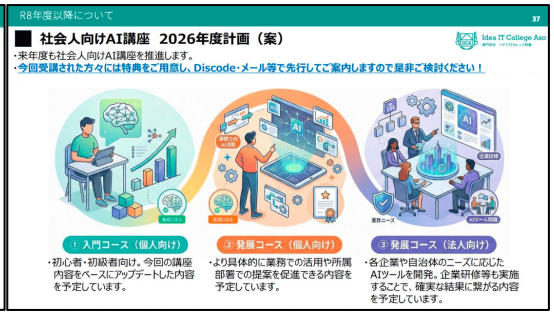

R7年度取り組み_AIキャリアアップコース
◆講座と並行して非公開コミュニティ（Discode）を運営
・企業参加、自己紹介（希望者）
・事前準備コンテンツの共有
・Q&A対応（その都度ChatGPT、IICA社会人学生も回答者として参加）
・終了後のアーカイブ動画の共有、アンケートの実施


R7年度取り組み_AIキャリアアップコース
詳細提出→修了者発行43名


R7年度取り組み_AIキャリアアップコース


R7年度取り組み_広報施策
○リカレント教育の情報発信 WEBサイト制作
・R7年度版のWEBサイトを作成。
・各コース別にLP構築。
○リカレント教育実践先進事例の情報発信
・SNS、リスティング広告等のメディアミックス 6本
・募集告知用リーフレット作成：A4 4ページ、500部
・動画：事業全体紹介用、5分程度版、1本
○特徴団体・企業からSNS宣伝、情報発信
・熊本県訪問主任児童生活支援協会・熊川温泉振興保護協同組合
・熊本県観光連盟
・熊本県DXコンソーシアム　・南阿蘇村観工会
・注文式教育企業　（65社）
○リカレント教材の動画作成
・ダイジェスト動画（4本（各動画３分程度内）
リカレント情報を集約するWEBサイト
IDEA IT COLLEGE ASO RECURRENT
地域観光×IT活用コースLP
AIキャリアアップコースLP
大人の学び場 AI研究所


R7年度取り組み_広報施策
各講座申し込みページ：Peatix　手数料はかからず、決済システムとしての初期投資がなく管理もしやすい。
これからの仕事に必須の、
AIスキルをあなたの手に！


R8年度以降について
■ 社会人向けAI講座　2026年度計画（案）
・来年度も社会人向けAI講座を推進します。
・今回受講された方々には特典をご用意し、Discode・メール等で先行してご案内しますので是非ご検討ください！
① 入門コース（個人向け）
・初心者・初級者向け。今回の講座内容をベースにアップデートした内容を予定しています。
② 発展コース（個人向け）
・より具体的に業務での活用や所属部署での提案を促進できる内容を予定しています。
③ 発展コース（法人向け）
・各企業や自治体のニーズに応じたAIツールを開発。企業研修等も実施することで、確実な結果に繋がる内容を予定しています。

【7】「注文式教育的な企業提携の仕組み」と継続的連携組織

ⅲ）取組を効果的・効率的に実施するための工夫

◎「リカレント教育に強い専門家の支援」

本事業においては、既にリカレント教育の実績がある教育機関、企業の知見が重要であるため、2 人の専門家で招へいし、カリキュラムや情報発信についてアドバイスをいただいた。

・小野田　金司氏　大阪観光大学～観光 IT 利活用コース

・今村　　新氏　　NX商事株式会社経営企画部 DX 推進室～エンジニア（AI）コース

◎実践プログラムを踏まえた今後の方針

◎IT 利活用コース「社会人向けスキルアップ講座」

1. ターゲット戦略の高度化

・中心層である 30～40 代中堅層に対し、「即実務活用型カリキュラム」を強化する。

・20 代若手向けには「基礎＋実践導入編」、50～60 代層には「戦略・意思決定視点」を補完する講座を設計する。

2. 受講者の半数を占める DMO・観光協会向けに「地域戦略実装モデル」を体系化

・受講者の半数を占める DMO・観光協会向けに「地域戦略実装モデル」を体系化する。

・講座修了者による地域横断型プロジェクト創出を促進する。

・異業種参加という強みを活かし、観光×他産業連携モデルを事例化する。

3. 九州広域コミュニティの形成

・熊本拠点と九州各県参加という強みを活かし「九州観光 DX ネットワーク」として発展させる。

・年 1 回の対面講座を開催し、実践事例の共有と連携強化を図る。

4. 実践支援の強化（アクション移行率向上）

・「明日から実行可能」層を 20%から 50%へ引き上げることを目標とする。

・ゼミ内でのアクションプラン具体化ワークを標準化する。

・小規模伴走支援プログラムの導入を検討する。

5. アウトプット時間の拡充

・オンラインゼミにおけるディスカッション時間を拡大する。

・ブレイクアウトルーム活用を体系化する。

・事前課題提出および当日フィードバック型運営へ発展させる。

6. ハイブリッド形式の最適化

・「オンライン中心＋戦略的対面開催」を基本設計とする。

・フィールドワークは繁忙期を避けて実施する。

・対面回はネットワーキング機能を明確に位置付ける。

7. 価格戦略

・現行価格帯（3万円程度）は適正であると判断する。
・付加価値向上に伴う上位伴走プランを設計する。
・法人向けパッケージ化を検討する。

◎AI キャリアアップコース 今後の展開方針

1. 受講者層別カリキュラム設計

・40～50 代管理職層向けに「AI 導入戦略・ガバナンス講座」を新設する。
・若手向けに「業務効率化特化型実践講座」を設計する。
・経営者向け少人数制 AI 戦略ゼミを検討する。

2. 全国展開モデルの強化

・地方×オンラインという強みを明確化する。
・全国受講生ネットワークを形成する。
・オンライン公開イベントを通じて認知拡大を図る。

4. 学習環境の高度化

・アーカイブ視聴期間を延長する。
・復習用教材を体系化する。
・GPTs や NotebookLM 等のテンプレートを共有する。

5. レベル差対応

・事前スキルチェックを導入する。
・初心者向け基礎講座を事前提供する。
・中上級者向け発展課題を追加する。
・ベル別ブレイクアウトセッションを導入する。

6. 実装・定着支援モデル

・業務への実装までを支援する課題提出制度を設ける。
・修了後コミュニティにおいて活用報告会を実施する。

7. 価格戦略

・現行価格帯は安価であったと判断する。
・約半分（6回）の講座で、5万円程度でも十分である。
・付加価値向上に伴う中級クラスの伴走プランを設計する。
・法人向けパッケージ化を検討する。

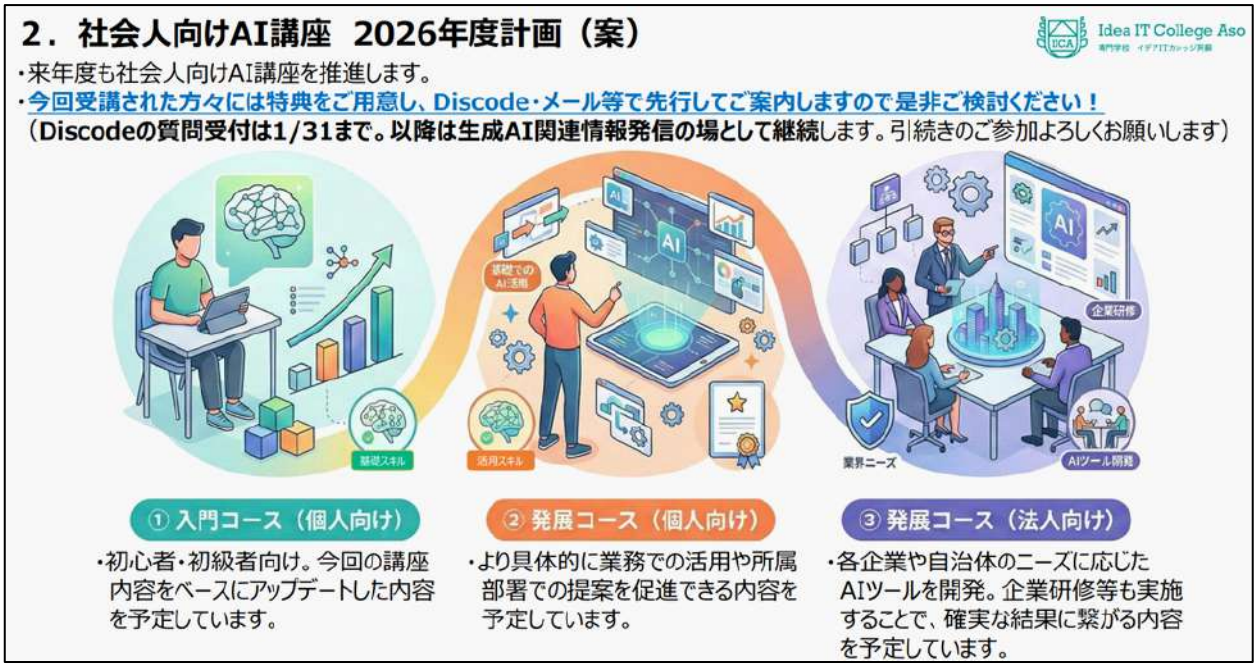
Ⅲ. 事業全体としての発展の方向性

・IICA を中心とした地域 DX 人材育成モデルを確立する。
・【観光×AI 融合型人材育成拠点】としての地位を確立する。
・「学び→実装→地域還元」の循環モデルを構築する。
・九州発・全国展開可能な社会人リカレント教育モデルを提示する。

◎R8 年度以降の具体的な取り組みについて

◆次年度は自走フェーズと新たな検証へ移行していく！
➡個人負担・企業負担の自走プログラムを本格的に実施する
➡一部は、アドバンスト・エッセンシャルワーカー業界・職種のリ・スキリングプログラムの検証・実証を行っていく。

◆地域観光×IT 活用コース
開催時期、業界・職種の再検討を行い、実施する。
◆AI キャリアアップコース
難易度を初級・中級と分割し、参加者レベルを調整して実施する。
業界・職種別の AI キャリアアップコースの検討



（4）事業実施に伴う成果物（成果報告書を除く）

令和6年度（2年目）	【1】リカレント教育・シラバス、教材の開発	①IT利活用コース シラバス案 8科目　30時間 ②ITエンジニアコース シラバス案 10科目　22時間 合計16科目	◎IT利活用コース 【全体テーマ】「社会人向けスキルアップ講座 地域観光×IT活用 実践プログラム」 【構成】：①観光地域づくりの取り組み方について学ぶ教養科目群、②観光DXについて学ぶ実務科目群、③阿蘇FWを通して学ぶ実践科目群の3部構成 【科目数】：8科目 ⇒12科目 【授業形式と時間】：合計30時間 ◎ITエンジニアコース 【全体テーマ】「生成AI×業務効率化 業務特化型生成AIモデル開発入門」 【構成】：①生成AIの基礎科目群 ②生成AIの活用科目群 ③Difyを用いたAIモデル企画科目群 ④Difyを用いたAIモデル開発科目群の 4 部構成 【科目数】：8科目 ⇒10科目 【授業形式と時間】：合計22時間
	【2】リカレント教育の広報と受講者募集	・リカレント教育の紹介HP、 パンフレット制作 ・リカレント教育の紹介 動画制作　3分間　6本	①IT利活用コース、② ITエンジニアコースの業界団体、企業向けにHPやパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。 HP、パンフレット等制作、動画制作　3分間　6本、
	【3】リカレント教育・実証講座の実施	①IT利活用コース　8科目 ・本科生　12人 ・聴講生　28人合計40人 ②ITエンジニアコース ・一部の公開講座を開催	①IT利活用コース業界・事業者と連携してリカレント講座を実施する。 IT利活用コース　8科目　⇒12科目 ・本科生　12人⇒　57人 ・聴講生（部分の受講者）　28人⇒46人　合計40人⇒103人 ②ITエンジニアコースは、一部の公開講座を開催して、次年度への周知、開催につなげる。
	【4】カリキュラム導入調査業務	・宿泊業、エリア・マネジメント業、 ・観光系ITサービス業の企業・団体 計15件	企業・団体へのヒアリング　計15件 ・リカレント教育導入の実態・理解、認識 ・リカレント教育カリキュラムの内容（時期、時間数、教員、教材、学習計画、形態）の関心度 ・本事業のリカレント教育の関心度、従業員への受講度合い
	【5】リカレント教育・受講生アンケート調査	受講生へのアンケート調査（宿泊業、エリア・マネジメント業、、観光業への転職希望者）　計40件	・リカレント教育授業の満足度、理解度 ・授業の内容（講師、講義内容、ワークの内容）・広報活動（応募動機、経路） ・受講構成（時期、時間数、教員、教材、学習計画、形態。リアルタイム型オンラインとオンデマンド型e-ラーニング）について　40人⇒50人
	【6】継続的連携組織	継続的な企業提携の仕組み導入	＊専門学校と業界団体、企業等で、本事業の成果物が継続的な利活用されるために、注文式教育的な企業提携の仕組みを導入する。また、教育機関、企業・団体等に対して積極的にしていく。

令和7年度（3年目）	【1】リカレント教育・シラバス、教材の修正	①IT利活用コース　シラバス案19.5時間（FW9h＋講座・ゼミ1.5h×5コマ＋課題発表3h=19.5h） ②AIキャリアアップコース19.5時間（1.5h/コマ×13コマ=19.5h）	◎IT利活用コース 【全体テーマ】「社会人向けスキルアップ講座 地域観光×IT活用 実践プログラム」 【授業形式と時間】：19.5時間（FW9h＋講座・ゼミ1.5h×5コマ＋課題発表3h=19.5h） ◎AIキャリアアップコース 【全体テーマ】「初心者歓迎！AIキャリアアップコース」 【授業形式と時間】：19.5時間（1.5h/コマ×13コマ=19.5h）
	【2】リカレント教育の広報と受講者募集	・リカレント教育の紹介HP、パンフレット制作 ・リカレント教育の紹介　動画制作 　3分間　5本	①IT利活用コース、② AIキャリアアップコースの業界団体、企業向けにHPやパンフレット等のツールを作成し広報を行い、受講者を募集する。 ＊HP、パンフレット等制作、動画制作　3分間　5本、
	【3】リカレント教育・実証講座の実施	①IT利活用コース　12人 ②AIキャリアアップコース40人 ・合計　52人 ・有償参加とする	①IT利活用コース　参加費：25,000円 　受講生　13人参加 ②AIキャリアアップコース：一般参加費：49,800円 　　受講生85名（内有料参加29名：その他招待枠） 合計　受講生：98人
	【4】リカレント教育・受講生アンケート調査	受講生へのアンケート調査（宿泊業、エリア・マネジメント業、、観光業への転職希望者）　　計20件	①IT利活用コース：回答者　10人：満足度　98%、 　課題探究度の満足度：9割、　リピーター度　100% ②AIキャリアアップコース：回答者　47人：満足度　87% 　スキルが向上した：97%、価格相当以上：81%、約84%が実務効率UPに直結すると回答
	【5】継続的連携組織	継続的な企業提携の仕組み強化	＊業界団体、企業等に働きかけて、2つのコースを案内して、企業側から社員を送り出すケースが多かった。今後も、リカレン教育プログラムを精査して、企業負担のプログラム化を図っていく。 ・今回のリカレント人材部会は、産官学が連記した部会であるため、今後も継続した組織体とする。

◎事業実施によって達成する成果及び測定指標

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業者側ニーズ調査の回答数/社会人の学び直し調査 回答数	目標値	人	―	60/150	―	―
	実績値	人		98/261		
	達成度	%		163%		

（上記 KPI の測定手法） アンケート調査の回収による回答数で測定

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
リカレント教育 シラバスの開発 科目数	目標値		―	14	―	―
	実績値			16		21
	達成度	%		114%		

（上記 KPI の測定手法） 開発したシラバスの科目数と時間で測定する

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
リカレント教育 教材の開発 科目数	目標値		―	―	14	―
	実績値				12	21
	達成度	%			86%	

（上記 KPI の測定手法） 開発したシラバスの科目に相当する教材数を測定する

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
実証講座の実施 受講者数（聴講生数を含む延数）	目標値			―	12(40)	52
	実績値				42(547)	98
	達成度	%			350%	188%

（上記 KPI の測定手法）受講生の数を本科生と聴講生に分けて測定する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受講生の講座の理解度、その後の活用度。5段階4以上の割合度	目標値		―	―	60	70
	実績値				96%	90%
	達成度	%				

（上記 KPI の測定手法）受講後直ぐと半年後アンケート調査で測定。講座の理解度と職場での活用度を5段階で評価した際、4以上の割合度で比較測定する。

KPI（成果測定指標）		単位	事業開始前	令和5年度	令和6年度	令和7年度
企業・団体へのリカレント教育への評価調査。5段階4以上の割合度	目標値		―	―	60	70
	実績値					80
	達成度	%				

（上記 KPI の測定手法）企業・団体へのリカレント教育への評価をアンケート調査で行い、必要性、重要性を5段階4以上の割合度で測定する。